

2022年度（令和4年度）

入学試験要項

公募制自己推薦（AO型）

※経済学部（経済学科 K-ENT 高大接続型）を除く。

◎試験当日は、この「入学試験要項」を必ず持参してください。

文 学 部
神道文化学部
法 学 部
経 済 学 部
人間開発学部※

※選考方法が一部変更となりました。
(令和3年9月30日変更)

もっと日本を。もっと世界へ。



〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

総合企画部入学課

☎ 03-5466-0141

www.kokugakuin.ac.jp

新型コロナウイルスの影響によって、やむを得ず、入学試験実施（出願要件・試験日程・試験内容等）について変更する可能性があります。変更が生じた場合は、本学 Web サイトにて随時公表いたしますので、出願にあたっては、必ず本学 Web サイトにて最新情報をご確認ください。また、出願開始後に変更が生じた場合は、当該出願者に対し E メールまたは郵送にて通知いたします。

入試情報に関する変更は、こちら（本学 Web サイト）からご確認ください。



目 次

1.	アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）	1
2.	募集人員・出願資格等	8
3.	実施スケジュール	10
4.	受験から入学手続まで	12
5.	入学試験要項	14
6.	出願書類について	37
7.	入学志願票記入例	40
8.	入学検定料	43
9.	学費等納付金	44
	(1) 学費等納付金について	
	(2) フレックスコースの学費等納付金について（神道文化学部）	
10.	入学前学習講座	45

【出願にあたっての注意事項】

1. 出願資格・受付期間・試験科目等について、事前に熟読してください。
2. 身体機能の障がいや疾病等により、受験・就学に際して配慮を必要とする場合は、出願する30日前までに必ず入学課（03-5466-0141）に連絡してください。

【提出書類の確認について】

調査書・証明書等については、記載内容の確認のため、大学から発行元の団体・機関等へ連絡をさせていただく場合があります。

【個人情報の取り扱いについて】

國學院大學では、「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努め、安全管理のために必要な措置を講じています。出願書類等に記載された個人情報は、下記の利用目的の範囲内において利用し、本人の同意の無い第三者への提供はいたしません。

なお、取得した個人情報に係る業務を外部委託する場合は、学校法人國學院大學個人情報の保護に関する規程、ならびに國學院大學個人情報の保護に関する規程に従い、適切に管理します。

利用目的	入学試験の実施および実施に伴う各種通知・入学手続に関する諸連絡、入学予定者への各種案内書類の送付、本学学校法人の國學院大學北海道短期大学部の案内書類送付、出願・入学動向の分析
データ項目	(1) 入学志願票に記入もしくは添付された項目 氏名、住所、電話番号、メールアドレス、性別、生年月日、国籍、出身学校(高等学校等・大学・短期大学(学士入学・編入学のみ))および卒業(見込)年月、志願する入試制度・学科(専攻)、大学入学共通テスト試験成績請求No、日本留学試験受験番号、写真 (2) 調査書、高等学校卒業程度認定試験合格証明書、各種検定・試験の合格証明書・成績(スコア)証明書等に記載されている項目 住所、氏名、生年月日、性別、学習成績の状況、担任による評価、検定・試験の成績および受検年月日
保管期間	10年間

國學院大學における個人情報の利用目的については下記の URL を参照してください。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/privacy/p2>

1. アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

※アドミッション・ポリシー（以下、「AP」）については、本学ホームページでもご確認ください。

文学部

【日本文学科】

◎求める人材、期待される入学者像

- ・日本の文学・言語・文化を研究したいという意欲を持ち、古典語を含む日本語と日本文化の基礎的な学力を備えている者。
- ・自ら問題を発見し、資料を収集・整理・分析して自分の考えをまとめ、文章で表現できる能力と姿勢を身につける意欲を持つ者。
- ・日本の文学・言語・文化の研究を通して新たな文化創造に参画し、社会に積極的に働きかけ貢献できる者。

◎入学者選考の観点

- (AP1) 国語（古文・漢文を含む）を中心に、日本文学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を修得しているか。
- (AP2) 自らの知識・技能に基づいて問題を発見し、物事を論理的・客観的に考え整理・分析する力と、それを自らの言葉で表現する能力があるか。
- (AP3) 日本の文学・言語・文化の学修・研究に強い意欲を持ち、将来において社会に発信する主体となるために、積極的に学ぶ姿勢があるか。

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学までに「古典A」「古典B」「現代文A」「現代文B」およびそれに相当する教科を履修していることが望まれます。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	○		○	レポートで本学科への志向性を、筆記試験で大学の学びに対応しうる学力と能力を有しているかを、面接試験で基礎的な学力と進学への意欲があるかを確かめます。活動レポートは、主体性を持ち他者と協働して学ぶ態度の評価に使用します。
志望理由書			◎	
課題レポート			○	
活動レポート			○	
筆記試験	◎	◎		
面接試験	○		○	

【中国文学科】

◎求める人材、期待される入学者像

- ・中国古典の学修・研究に、強い興味・関心を持つ者。
- ・中国近現代文学の学修・研究に、強い興味・関心を持つ者。
- ・中国語の学修・研究に、強い興味・関心を持つ者。
- ・中国文化の学修・研究に、強い興味・関心を持つ者。
- ・教職を目指しての専門分野の学修・研究に、強い興味・関心を持つ者。

◎入学者選考の観点

- (AP1) 国語（古文・漢文を含む）を中心に、中国文学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を修得しているか。
- (AP2) 知識・技能に基づいて、論理的に考え、自主的に判断し、それを正確に表現する能力を持っているか。
- (AP3) 中国の文学や文化に対する志向性を持ち、主体的に学ぶ姿勢があるか。

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学までに、「国語総合（古文・漢文を含む）」で古文・漢文の基礎をしっかりと身につけ、「世界史A」ま

たは「世界史B」では、特に中国の歴史・文化とわが国との関係について、十分な知識を身につけていることが望まれます。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	◎			中国の文学や文化に強い興味・関心を持ち、本学科での学修に主体的に関わろうとする意欲のある者を受け入れます。
志望理由書		○	◎	
活動レポート	○	○	○	
授業レポート	○	◎		
面接試験	○	○	◎	

【外国語文化学科】

◎求める人材、期待される入学者像

- ・英語および選択必修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語のうち一言語）を使えるようになりたいという意欲をもつ者。
- ・英語、ドイツ語、フランス語、中国語を話す地域を中心に、世界各地の文化や習慣を知り、知識の幅を広げたいという意欲がある者。
- ・日本と世界各地のさまざまな言語・文化を照らし合わせながら、グローバル社会における日本文化の発信にかかわろうとする意欲がある者。

◎入学者選考の観点

(AP1) 外国語、国語を中心に、外国語文化学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を修得しているか。

(AP2) 自分の知識・技能を適切に組み合わせて、論理的に考え、答えを導き出し、表現する能力をもっているか。

(AP3) 自発的に学び、多様な価値観をもつ人々と積極的に協力する姿勢があるか。

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学までに「コミュニケーション英語I、II、III」「英語表現I、II」「国語総合（現代文）」を身につけ、さらに「世界史B」「日本史B」「地理B」から一つ以上の教科を学んでおくことが望まれます。

以上に加えて、実用英語技能検定（英検）2級以上（CSE2.0：1,980以上）、TOEIC®L&R 500点以上を獲得できる英語能力を持つことが望まれます。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	◎			本学科に対する強い志向性を重視します。その上で、外国語・外国文化を学ぶのに必要な基礎学力を持つ生徒を受け入れます。
志望理由書			◎	
活動レポート・添付資料	○	○	◎	
小論文試験（英語）	◎	○		
小論文試験（日本語）	○	◎		
面接試験	○	○	◎	

【史学科】

◎求める人材、期待される入学者像

- ・日本や世界の歴史に関心を持ち、さらに専門的な知識を学んで理解を深めたい者。
- ・歴史資料の調査や研究方法を学び、歴史研究の発信や文化財の保護・活用にかかわりたいという意欲がある者。
- ・歴史上の諸問題に関心を持ち、さまざまな価値観を持つ人々と協力しながら、新しい社会を創造していこうとする意志を持つ者。

◎入学者選考の観点

(AP1) 地理歴史、国語、英語を中心に、史学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を修得しているか。

(AP2) 物事を論理的・客観的に考える力があり、それらを自分の言葉で発信する能力があるか。

(AP3) 日本史学・外国史学・考古学・地域文化と景観（歴史地理）分野の学修・研究に強い関心を持ち、かつ主体的に学ぶ姿勢を備えているか。

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学までに「日本史B」「世界史B」「地理B」から一つ以上を学んでおくことが望まれます。さらに、「国語総合（古文・漢文を含む）」「古典B」「コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「英語表現Ⅰ、Ⅱ」およびそれに相当する教科について、基礎学力を身につけておくことが望まれます。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	◎			歴史・地理分野の研究に強い関心を持ち、本学科での学修に主体的に関わろうとする意欲的な者を受け入れます。
志望理由書		○	◎	
レポート		◎	○	
活動レポート			◎	
論述試験	○	◎		
面接試験		○	◎	

【哲学科】

◎求める人材、期待される入学者像

- ・東洋・西洋の哲学思想に対する学修を通して、社会に貢献できる知識と能力を有する者。
- ・哲学・倫理学および美学・芸術学の学門分野に対する強い志向性を持ち、物事の本質を見極めたいという知的探究心に基づき、論理的思考を通して洞察を深めることができる者。
- ・文献を読解し、渉猟することによって、あるいは他者との対話によって様々な知に触れ、自らの考えを吟味検証することができる者。

◎入学者選考の観点

(AP1) 現代文、英語を中心に、哲学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を習得しているか。

(AP2) 自分の知識・技能に基づいて、論理的に考え、自ら判断し、それを表現する能力を持っているか。

(AP3) 哲学（哲学・倫理学や美学・芸術学分野）に対する志向性を持ち、主体的に学ぶ姿勢があるか。

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学までに「国語総合（現代文）」「コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「英語表現Ⅰ、Ⅱ」を身につけ、さらに「倫理」「現代社会」「政治経済」「世界史B」「日本史B」「美術Ⅰ」「音楽Ⅰ」「地理A」「地理B」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」およびそれに相当する教科を一つ以上履修していることが望まれます。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	◎			哲学・倫理学および美学・芸術学の学門分野に興味・関心を持ち、学ぶ意欲を強く持つ者を受け入れます。
レポート	○	◎	○	
活動レポート		○	○	
自己推薦書		○	◎	
課題図書に基づく小論文試験	○	◎		
面接試験		○	◎	

神道文化学部

【神道文化学科】

◎求める人材、期待される入学者像

國學院大學神道文化学部は、神道を中心とする日本文化への高い関心と、国内外の宗教文化を広く学ぼうとする意欲とを持ち、宗教・文化の継承者として、人々の共存や社会の発展に寄与しようとする人材を受け入れます。

具体的には、次のような意欲・意志を持って、学びの成果を社会に活かそうとしている人材を求めています。

- (1) 神道の歴史・思想を学ぶ意欲を持つ者
- (2) 神道の社会的実践について学ぶ意欲を持つ者
- (3) 日本の伝統文化を深く学ぶ意欲を持つ者
- (4) 世界の宗教文化を広く学ぶ意欲を持つ者
- (5) 神社や神道系宗教団体の後継者を志す者

◎入学者選考の観点

人材受け入れのため、次の観点から受験生を選考します。

- (AP1) 神道を中心とする日本文化や国内外の宗教文化（以下「神道文化・宗教文化」）に関わる授業を履修するために必要となる高等学校卒業相当の知識と文章表現のための技能を身につけているか。〈知識・技能〉
- (AP2) 他者の考えを的確に理解し、自らの考えを理論的かつ簡潔にまとめ、ことばで正確に表現できる能力を有しているか。〈思考力・判断力・表現力〉
- (AP3) 神道文化・宗教文化を幅広く学ぼうとする意欲を持っているか。また、神道文化・宗教文化の学びの成果を活かして、社会への貢献を目指す意志を持っているか。〈主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〉

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身に付けるべき教科・科目

神道文化学部に入学者となる学生には、入学後の教育内容との関係上、「国語」「地理歴史」「公民」「外国語（英語）」の学習を求めます。

選考方法		AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
1次選考	調査書	◎	○	○	神道文化学部での学修に必要な総合的な学力を持つ受験生を選考します。 面接試験・志望理由書等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。 課題図書に基づくレポートでは、主に知識や文章表現のための技能を問います。 授業レポートでは、主に思考力・表現力を問います。
	志望理由書		○	◎	
	活動レポート		○	◎	
	課題図書に基づくレポート	◎	○		
2次選考	授業レポート	○	◎		
	面接試験		○	◎	

法学部

【法律学科（法律専攻・政治専攻）】

法学部は、法律学・政治学に関する知識・理論を理解し、これらを活用して価値観の多様化する現代社会に主体的に参画し、社会の様々な分野で活躍できる人間を育成します。このため本学部は、本学部で法律学・政治学の研鑽に努めることに強い意欲を有し、本学部の教育課程を通じて培った専門的知識や能力を活かして、社会に主体的に参画したいと考える学生を受け入れます。

◎求める人材、期待される入学者像

法律専攻では、とくに次のような人材を求めています。

- ・ 法や政治に関心を有し、社会の様々な分野で活躍したいという意欲がある者

政治専攻では、とくに次のような人材を求めています。

- ・ 政治に関心を有し、将来政治に関する職業に就くことを目指す者、または、「よき市民」として政治に積極的に関わる意欲を持つ者

◎入学者選考の観点

- (AP1) 本学部で学ぶ分野に関連する教科・科目について、高等学校卒業程度の基礎学力を備える者。
- (AP2) 社会的な事象に対して問題意識を持ち、情報を収集・整理・分析し、論理的に考え、自分の考えを表現するための基礎的な力を持つ者
- (AP3) 教科外の活動に取り組み、その中でコミュニケーション能力などを培ってきた者
※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学後の教育内容との関係で、本学部の入学者には、入学までに、「国語」「外国語」「地理歴史」「公民」、基礎的な「数学」、基礎的な「理科」の学習を求めます。

(別表)

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書			○	・第1次選考（エントリーシートおよびレポート（ALT型）に基づく書類選考）、第2次選考（自己アピールおよび面接試験による選考）の2段階で実施 ・法律専攻・政治専攻のみ募集
エントリーシート		○	○	
レポート（ALT型）		○		
自己アピール		○	○	
面接試験		○	○	

経済学部

◎求める人材、期待される入学者像

経済学部は、経済と経営に関する教育を主軸に、主体的に人生を切り拓き、自ら選んだ分野で社会に貢献できる人材を育成します。このことを踏まえて本学部では、次の能力・資質・態度に優れた者を受け入れます。

◎入学者選考の観点

- (AP1) 「英語」「国語」「数学」「地理歴史」「公民」を中心に、経済学部で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を備える者。
- (AP2) 各自の問題関心に基づき、情報を収集・分析し、論理的に考え、自らの主張について根拠を示しながら表現できる能力を持つ者。
- (AP3) 他者と積極的に交流し、新しい知識や経験に対して主体的に学修する強い意欲を持つ者。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

「外国語」「政治・経済」「地理」「日本史」「世界史」「数学」

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい	
K-ENT 研究発表型	調査書	◎		本学部・学科のディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、アドミッション・ポリシー（AP）を理解し、高校在学中に本学部・学科での学修に結びつく問題領域に強い関心を育み、その問題領域における課題を自ら設定し、その解決に取り組んだ成果を発表できる者を受け入れます。	
	エントリーシート		○		
	活動レポート		○		
	研究レポート		◎		○
	研究発表	○	◎		◎
	面接試験		○		○
K-ENT 課題レポート+ 面接型	調査書	◎		本学部・学科のディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、アドミッション・ポリシー（AP）を理解し、APに示された基礎学力を高校在学中に習得し、本学部・学科での学修後の自らの社会人像を明確に持っている者を受け入れます。	
	エントリーシート		○		
	活動レポート		○		
	課題レポート	○	◎		
	面接試験		○		◎

- (AP1) 知識・技能
- (AP2) 思考力・判断力・表現力
- (AP3) 主体性・意欲・志向性

【経済学科】

経済学科は、日本と世界の経済に関心と学修意欲を持ち、将来、企業や公務員を含むさまざまな分野で個性豊かに活躍することを目標とする、以下のような人材を求めています。

- ・ 経済理論を真摯に学び、仮説を立て、データを駆使して経済問題を分析したい者。
- ・ 数学的思考力を経済学の学修に生かし、向上させたい者。
- ・ 歴史的なアプローチにより、現代の経済問題を把握し、また分析したい者。
- ・ 現地調査の能力を高めて、地域経済の実態を分析し、より良いあり方を提示したい者。
- ・ 日本経済の発展要因と課題を理解し、将来に向けた政策を考察したい者。
- ・ グローバルな視点で日本や地域の経済を意識しながら、世界経済の現状と課題を考察したい者。

【経営学科】

経営学科は、企業の経営・会計に関心と学修意欲を持ち、市場・組織・戦略に関する学習・研究を通じて、以下のような能力を磨き、将来社会で活躍できる人材を求めています。

- ・ 実践力と経営スキルを磨いて、企業などの組織の中で、ビジネスリーダーとして活躍したい者。
- ・ 創造力と課題解決力を磨いて、新たなビジネスに挑戦する企業経営者、起業家、事業承継者などとして活躍したい者。
- ・ 分析力と論理的思考力を磨いて、会計士、税理士、コンサルタントなどとして、あるいは金融にかかわる業務で活躍したい者。

人間開発学部

人間開発学部では、自らの資質・能力の向上と人間力育成を求めるとともに、教育者・指導者に強い志向性を有することが求められます。そのための基礎学力を持ち、自ら学ぼうとする学習意欲を保持し、十分なコミュニケーション力を有してそれをより高めようとする学生を受け入れます。

心身の発達に関する教養を総合的に身につけていくため、幅広い分野に関心を持って学んできており、さらに、今後の学生生活・卒業後の進路について展望を持っている学生を受け入れます。

◎求める人材、期待される入学者像

【初等教育学科】

初等教育学科では、日本の教育への関心と理解があり、教育の諸領域における各種問題に関する専門的な知識や技能の修得を目指して、「教育の専門家」を志す意欲の高い学生を受け入れます。

【健康体育学科】

健康体育学科では、身体運動や身体諸機能への関心と理解があり、健康の維持増進のあり方と多様なスポーツに関する専門的な知識や技能の修得を目指して、様々なライフステージでの健康・体育分野への寄与を志す意欲の高い学生を受け入れます。

【子ども支援学科】

子ども支援学科では、日本の幼児教育・保育への関心と理解があり、幼児教育・保育の諸領域における各種問題に関する専門的な知識や技能の修得を目指して、「幼児教育・保育の専門家」を志す意欲の高い学生を受け入れます。

◎入学者選考の観点

(AP 1) 知識・技能

(AP 2) 思考力・判断力・表現力

(AP 3) 主体性・意欲・志向性

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	○			「人間開発」に強い関心を持ち、本学部・学科への志向性が高い者を求めています。 レポート提出を課し、小論文試験、面接試験、実技試験（子ども支援学科のみ）を行います。
エントリーシート		○	○	
活動計画書			◎	
活動報告書・添付資料	○		○	
レポート	◎	◎	○	
小論文試験	◎	◎	○	
面接試験		○	◎	
実技試験 (子ども支援学科のみ)	○	◎	◎	

◎入学までに身につけるべき教科・科目

教師や指導者になるためには、幅広い分野に関心を持って学ぶ姿勢が必要です。そのための基本的な能力は言語力であり、「国語」の修得が必須となります。

日常生活の中において学習する習慣をつけていることが大切であり、本学部で学修する上で、高校での修学以外に、次にあげるいずれかの能力検定試験相当の学力をもつことが望ましい。

- ・日本漢字能力検定：準2級以上
- ・日本語検定：3級以上
- ・実用英語技能検定：CSE 2.0：1,700以上
- ・歴史能力検定（世界史または日本史）：3級以上
- ・実用数学技能検定：準2級以上
- ・理検STEP：2級以上など、高校中級以上のレベル

2. 募集人員・出願資格等

(1) 募集人員

学部	学科	コース・専攻・区分	募集人員
文学部	日本文学科		23名
	中国文学科		5名
	外国語文化学科		15名
	史学科		23名
	哲学科		13名
神道文化学部	神道文化学科	フレックスA（夜間主） ^{※1}	5名
		フレックスB（昼間主） ^{※2}	9名
法学部	法律学科	法律専攻	26名
		政治専攻	2名
経済学部	経済学科	K-ENT 研究発表型	22名 ^{※3}
		K-ENT 課題レポート+面接型	
	経営学科	K-ENT 研究発表型	22名
		K-ENT 課題レポート+面接型	
人間開発学部	初等教育学科		14名
	健康体育学科		18名
	子ども支援学科		13名

※1・※2 神道文化学部のフレックスコースの選択については、P.24を熟読してください。

※3 経済学科の募集人員はK-ENT 高大接続型を含みます。

募集人員は変更になる場合があります。

出願状況および試験結果等により、合格者が募集人員を下回ることがあります。

(2) 出願資格

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む）又は中等教育学校を卒業した者、及び令和4年3月卒業見込みの者。
 - ② 高等専門学校3年次を修了した者、及び令和4年3月修了見込みの者。
 - ③ 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、及び令和4年3月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣が指定した者。
 - ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の課程を修了した者、及び令和4年3月31日までに修了見込みの者。
 - ⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であること、またその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者、及び令和4年3月31日までに修了見込みの者。
 - ⑥ 文部科学大臣が指定した者。
 - ⑦ 高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定試験に合格した者を含む）、及び令和4年3月31日までに合格見込みの者で令和4年3月31日までに18歳に達する者。
 - ⑧ 本学において、個別の入学審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和4年3月31日までに18歳に達する者。
- ※出願に際し、資格等で不明な点がある場合は、必ず入学課（03-5466-0141）までお問い合わせください。

(3) 併願について

本試験制度内における複数学科・専攻（法学部のみ）への出願は経済学部を除くすべての学部・学科で可能です。ただし、経済学部については、K-ENT 研究発表型・K-ENT 課題レポート+面接型・K-ENT 高大接続型のコースを併願することはできません。また、いずれのコースともに経済学部内の学科を併願することもできません。

本制度は他大学との併願が可能です。

出願書類は志望学科・専攻それぞれに作成し、提出する必要があります。入学検定料は1学科・専攻につき35,000円で併願に伴う減免はありません。また、第1次選考（書類選考）の結果、複数学科・専攻に合格した場合は、第2次選考の受験は1学科・専攻のみとなります。なお、試験日の異なる試験制度への併願は可能です。

(4) その他

高等学校等での学習成績の状況（旧評定平均値）は、経済学部K-ENT方式を除き、出願要件としません。

各学部学科によって出願要件は異なります。出願資格と出願要件をよく読んでから出願してください。

(5) 入学検定料

35,000円

※一度納入された入学検定料については、いかなる理由があっても返還しませんので、ご注意ください。

3. 実施スケジュール

<文学部・神道文化学部・法学部・人間開発学部>

出願期間

令和3年10月4日（月）～10月8日（金）（消印有効）

第1次選考

【選考方法】書類選考

第1次選考合格発表日

令和3年10月27日（水）

第2次選考（第1次選考合格者のみ）

【試験日】令和3年11月14日（日）

【集合・開始時刻】

学部	時刻	試験会場（巻末参照）
文	【集合】 9：30 【開始】 10：00	渋谷
神道文化	【集合】 9：30 【開始】 10：00	
法	集合、開始は午前・午後に分かれる（※）	
人間開発	【集合】 9：00 【開始】 9：30	たまプラーザ

※第1次選考合格者に別途通知します。

最終合格発表日

令和3年11月24日（水）

入学手続期間

令和3年11月24日（水）～12月1日（水）（消印有効）

<経済学部>

出願期間

令和3年9月22日（水）～9月29日（水）（消印有効）

第1次選考

【選考方法】書類選考

第1次選考合格発表日

令和3年10月13日（水）

第2次選考（第1次選考合格者のみ）

【試験日】令和3年10月24日（日）

【試験会場】渋谷キャンパス

【集合・開始時刻】午前・午後に分けて実施（第1次選考合格者に別途通知します）

合格発表日

令和3年11月2日（火）

入学手続期間

令和3年11月2日（火）～11月10日（水）（消印有効）

4. 受験から入学手続きまで

(1) 受験に関する諸注意

①開門時刻	<p>集合時刻30分前</p> <p>※ <u>試験教室には試験開始30分前までに入室</u>してください。入場後は、試験が終了するまで場外に出ることはできません。</p>
②受験番号 通知書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出願された方全員に受験番号通知書を発送します。試験3日前になっても受験番号通知書が届かない場合や、記載内容に誤りのある場合、また紛失や破損をしてしまった場合には、入学課（03-5466-0141）までお問い合わせください。 ・ 電算処理の関係上、受験番号通知書・合格通知等に表記できるのは、JIS第1水準及びJIS第2水準までの漢字です。表記できない漢字については、字体の異なる同字で置き換えられるか、カタカナで表記されますのでご了承ください。 ・ 試験当日は必ず<u>受験番号通知書を持参</u>し、案内掲示板にて自分の受験番号を確認のうえ、該当の試験教室に入室してください。 ・ 受験番号はUCAROによる合否通知に必要となりますので大切に保管してください。
③遅刻	<p><u>遅刻は一切認めません</u>。指定された集合時間に間に合わない場合、試験を受けることはできません。なお、事故等により交通機関に遅延が生じた場合でも、試験は原則として定刻通り実施します。</p>
④試験時間 中の注意 事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>時計は必ず持参してください</u>。ただし、辞書・電卓・計算・通信端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは使用できません。また、試験時間中は携帯電話など電子機器類の電源を必ず切ってください。 ・ 筆記具はHBのもの、消しゴムはプラスチック製を使用してください。下敷き・定規・コンパスなどは使用できません。 ・ 受験者は試験時間中に以下の物を使用することができます。（ただし、不正行為防止のため、必要に応じて試験監督者が確認する、または使用を認めないことがあります。） 「座布団」・「ひざ掛け」・「コート」・「マスク」・「ティッシュペーパー」・「ハンカチ」・「ハンドタオル」・「目薬・点鼻薬」 ・ 英語や地図、和歌や格言等が印字されている服の着用や所持品の使用はできません。 ・ 試験教室からの入退室は、試験監督の指示に従ってください。不正行為をした者・試験監督の注意や指示に従わない者には退室を命じ、以降の受験は一切認めません。
⑤感染症に 関する 注意事項	<p>試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ・麻疹・風疹等）に罹患し治癒していない者は、他の受験者や監督者等への感染の恐れがありますので、受験をご遠慮願います。</p> <p>また、試験当日に発症の疑いがあると大学が判断した場合には、受験をご遠慮願いますので、体調管理については十分注意してください。</p> <p>ただし、症状により学校医その他の医師において伝染の恐れがないと認められた際には、この限りではありません。なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、原則として再試験などの措置や入学検定料の返還は行いません。</p>

⑥その他	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部・神道文化学部・人間開発学部の面接試験は午後からとなりますので、昼食を持参してください。 ・上履きを持参する必要はありません。 ・試験教室の下見はできません。 ・試験会場へは公共の交通機関をご利用ください。自動車や自転車、バイク等での試験場構内への乗り入れはできません。 ・大規模災害等、不測の事態により、所定の日程通りに入学試験や合格発表等を実施することが困難であると本学が判断した場合、延期・再試験等の対応措置を取らざるを得ないことがあります。これらの対応措置を講ずる場合は、本学ホームページ（www.kokugakuin.ac.jp/admission）に掲載しますので、確認してください。
------	---

(2) 評価方法について

出願書類ならびに各学科が指定する選考方法を用いて、アドミッション・ポリシーに基づき、学力を構成する特に重要な以下の三つの要素を多面的・総合的に評価する。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
- ② 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力
- ③ 主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

(3) 合格発表について

第1次合格発表・最終合格発表とも、受験ポータルサイト「UCARO」にて合否通知を行います。確認する際に、**受験番号と生年月日**が必要となります。発表日の12:00以降に下記のアドレスにアクセスしてください。

電話による合否の問い合わせには一切応じません。

合格発表専用 UCARO ホームページアドレス

<https://www.ucaro.net/gouhi/304012A>



(4) 入学手続について

最終合格者に対しては、UCARO上の合格発表画面にて、入学手続に関する案内を行います。入学手続は、Web入学手続システムを通して行うものとし、大学から入学手続書類・合格通知書等の送付はいたしません。UCARO上の画面の指示に従って手続を行ってください。

なお、「誤操作」「見間違い」等を理由とした入学手続締め切り日を過ぎての入学手続は一切認めません。

5. 入学試験要項

《 文学部 》【1】日本文学科

(1) 募集人員

23名

(2) 出願要件

本学文学部日本文学科で学びたいという強い意欲を持ち、次の項目のいずれかについて関心を強く持つこと。

志望コード	志望項目
C31	日本古典文学の学修・研究
C32	日本近現代文学の学修・研究
C33	日本語（古代語・現代語・方言など）の学修・研究
C34	伝承文学（民俗学、口承文芸、祭礼・芸能など）の学問・研究
C35	書道に関する学修・研究

※上記のうち関心のある項目1つを入学志願票の所定欄に記入してください。
(入学後の専攻の決定に結びつくものではありません。)

(3) 選考方法

※「出願書類について」
(P.37～39)を必ず
熟読してください。

【第1次選考】 書類選考

① 課題レポート【様式1】(1,200字程度)

出願要件の志望項目（志望コードC31～C35）のうち、日本文学科で研究してみたいと思う具体的な研究テーマを一つ決めて、その研究計画を論述する。あなたがそのテーマを選んだ理由や動機、そのテーマの面白さ、そのテーマを研究するために必要と思われる実践的な調査や作業、予想される問題点、そのテーマを研究することの意義などについて、自由に記述しなさい。

【例】『源氏物語』の登場人物と楽器」「谷崎潤一郎『細雪』の研究」「『今昔物語集』の敬語」「岩手県三陸地方の神楽について」など。

② 志望理由書【様式2】(1,000字程度)

國學院大學の日本文学科に入学して、何を、どのように学びたいと考えているのか、どの専攻に進み、どのようなジャンル（時代・作品・作家など）を研究し、どのようなテーマで卒業論文を書きたいと考えているのか、できるだけ具体的に詳しく記述しなさい。また、あなたがこれまで学校の授業以外に、「文学」とどう関わってきたか、これからどう関わっていきたいと考えているのかを、合わせて記述しなさい。

③ 活動レポート【様式3】(800字以内)

レポートのみを提出し、参考資料などは添付しないでください。

【第2次選考】

① 筆記試験（古文を読んでの論述、全体で1,000字程度、80分）

以下の3種の古語辞典のうち、紙に印刷された辞書を1冊のみ当日持ち込み可とします（但し、書名に「全訳」とあるものは不可）。電子辞書は不可。
『旺文社 古語辞典』（旺文社）、『古語林』（大修館書店）、『新明解古語辞典』（三省堂）

② 面接試験（約20分）

日本文学科での勉学・研究に対する目的意識・修学意欲などについての面接を行う。
(古典の基礎知識を含む。)

※第2次選考は終日となるため、昼食を用意すること。

文学部 日本文学科 「選考のポイント」

【第1次選考】

- ・「課題レポート」と「志望理由書」の趣旨の違い、目的の違いを区別して書いてください。志望動機や抱負などは「課題レポート」には書かず、「志望理由書」に書いてください。
- ・「課題レポート」も「志望理由書」も、箇条書きは認めません。全体がひとつながりの文章になるよう、構成を考えて書いてください。なお、改行によって生じた余白は、文字数に含めません。
- ・「課題レポート」は、研究テーマが明確で具体的であればあるほど評価が高くなります。内容が漠然としているものや、抽象的で曖昧なものには、高い評価は与えられません。また、レポートの研究テーマが、自分が選択した志望コードと合致していないと評価が下がるので、注意してください。
- ・「志望理由書」は、日本文学科での「学び」について記述するものであり、学科の「学び」に直接関わらないこと（部活動やスポーツなど）を書いてはいけません。「学び」以外の自己アピールは、「活動レポート」に記載してください。
- ・國學院大學の特色は、図書館の蔵書が多いとか、教員になる卒業生が多いといった表面的なことだけではありません。これまで國學院大學が取り組んできた多様な「研究」の歴史を調べてみて、その特色をできるだけ理解した上で、より深い志望理由を考えてみてください。
- ・「志望理由書」に書いてほしいのは、いったいあなたがどういう人間で、あなたのどういうところが國學院という大学に向いていると感じるのか、ということです。ぜひその点を「自己推薦」してみてください。
- ・どの書類も、「貴学」という語は使わず、「國學院」と書いてください。

【第2次選考】

①筆記試験

知識を問う試験ではなく、これから日本文学科で学んでいくために必要な、総合的な知的能力があるかどうかを見るための論述試験です。文章を読んで類推し想像する力と、自然な日本語の表現能力を重視して評価します。

②面接試験

- ・第1次選考に提出された課題レポート・志望理由書・活動レポートの内容に基づいて、日本文学科での「学び」に対するあなたの意欲の強さを確認します。課題レポートについては、あなたが書いた内容について具体的に質問をします。さらに、日本語学・日本文学についての関心の高さや、高等学校卒業までに身につけているはずの国語の常識についても確認します。
- ・面接では、あなたの「学び」に対する意欲を確認すると同時に、あなたが本当に日本文学科に合っているかという適性も確認します。適性というのは、何よりも読書が好きか、本当に文学が好きか、といったことです。
- ・面接では、その場で考えて答える自然な対話を高く評価します。また、無理に自分をアピールする必要はありません。ぜひ自然体で面接に臨んでください。

【2】中国文学科

(1) 募集人員

5名

(2) 出願要件

本学文学部中国文学科で学びたいという意欲を持ち、中国・中国文学・中国文化などに強い興味・関心を持つこと。

志望コード	志望項目
C61	中国古典の学修・研究
C62	中国近現代文学の学修・研究
C63	中国文化の学修・研究
C64	教職を目指しての専門分野の学修・研究

※上記のうち関心のある項目1つを入学志願票の所定欄に記入してください。
(入学後のプログラムの決定に結びつくものではありません。)

(3) 第1次選考の免除

次の条件に該当する者は、本人の申請に基づいて、第1次選考を免除する。
社会人：令和4年4月1日現在において、満22歳以上である者。
就業経験は問わない。
※免除申請者は、履歴書【様式7】を必ず提出してください。

(4) 選考方法

※「出願書類について」
(P.37～39)を必ず
熟読してください。

【第1次選考】書類選考

① 志望理由書【様式2】(900～1,000字)

本学科を志望する理由について、入学後の取り組みの方針と、すでに取り組んでいる学び(出願要件のC61～C64から選択した項目と関連づける)を含めて、具体的に記述する。

② 活動レポート【様式3】(400～800字)

平成31年4月以降、自身が主体的に取り組んだ活動について具体的に記述すること。

③ 履歴書(社会人に対する第1次選考免除申請者のみ)【様式7】

【第2次選考】

① 授業の受講とレポート作成(120分)

授業(50分)を受け、授業内容に関するレポート(1,000字程度、70分)を作成する。

② 面接試験(約20分)

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

※第2次選考は終日となるため、昼食を用意すること。

文学部 中国文学科 「選考のポイント」

中国文学科では、中国文学を中心に、幅広く中国への関心と探究心を持ったみなさんの学修に即応する教育システムを導入しています。公募制自己推薦（AO型）入試は、中国文学科のアドミッション・ポリシー（以下「AP」）に基づき、みなさんの志向性や意欲を中心に選考しますので、学びへの関心と中国文学科への理解がその前提となります。APについては本要項のP.1で、4プログラム制・セメスター留学など、中国文学科の教育内容の特色については、ホームページ・入学案内・オープンキャンパスなどで、事前に確認してください。

選考の視点は以下の通りです。

【第1次選考】

志望理由書の審査では、中国文学科への志向性を確認します。中国への関心・探究心をもったきっかけや、そこから主体的に取り組んでいる学びについて記すとともに、中国文学科の特色をふまえ、その取り組みを入学後の学びにどうつなげるかを記してください。

活動レポートでは、平成31年4月以降の生活を振り返り、自身が主体的に取り組んだ活動について、具体的に400～800字で記してください。

【第2次選考】

授業の受講とレポート作成では、授業内容の要点を把握してまとめられているか、そこからさらに自分の考えを展開できているかが評価のポイントになります。要約や意見を、正しく論理的に表現する練習をするといいでしょう。

面接では、中国文学科への理解や志向性・意欲がどの程度か確認します。志望理由や現時点・入学後の学びについて説明できるとともに、質問に対して自分の言葉でしっかり答えられるかが求められます。

【3】 外国語文化学科

(1) 募集人員

15名

(2) 出願要件

本学文学部外国語文化学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望（複数可）を強く持つこと。

- ① 2外国語（英語および独・仏・中国語のいずれか）についての学修・研究
- ② 外国語によるコミュニケーションや言語文化についての学修・研究
- ③ 英語・独語・仏語・中国語圏の文化についての学修・研究
- ④ 外国語による日本文化の発信活動

かつ、英語検定試験でCEFR A2以上のスコア（P.39参照）を持つこと。

(3) 選考方法

※「出願書類について」
（P.37～39）を必ず
熟読してください。

【第1次選考】 書類選考

① 志望理由書【様式2】（900～1,000字）

② 活動レポート【様式3】

- (1) 自身が主体的に取り組んだ活動について
- (2) 外国語の資格検定試験に関する取り組みについて

【様式3】を2枚印刷し、(1)と(2)それぞれ200～800字で述べること。

③ 英語検定試験CEFR A2以上のスコア証明書

平成31年4月1日以降に取得したものに限り、複数の試験でA2以上のスコアを有している場合は、複数添付しても構いません。P.37～39も併せて確認してください。

④ ドイツ語・フランス語・中国語の検定試験合格証明書

平成31年4月1日以降に取得したものに限り、

添付した証明書の名称は、全て【様式3】裏面の添付資料目録に記載すること。活動レポート(1)の内容（主体的に取り組んだ活動）に対応する資料は添付不要です。目録にも記載する必要はありません。

※①②③の提出は全員必須、④は該当者のみ提出。

【第2次選考】

① 小論文試験（英語30～50語程度、日本語400字程度、90分）

英語・日本語の運用能力、論理的思考力を問う。

② 面接試験（約20分）

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う（英語による質疑応答を含む）。

※第2次選考は終日となるため、昼食を用意すること。

文学部 外国語文化学科 「選考のポイント」

【第1次選考】

志望理由書の審査では、外国語文化学科で学ぶ強い意志があるかどうかを確認します。単に学ぶ意志があるというだけでなく、その意志を持ったきっかけや理由等についても説明してください。また、入学後は何を学びたいか、大学での学びを将来の進路にどうつなげるか、現時点で考えられることを具体的に述べてください。

活動レポートには、平成31年4月以降の生活を振り返り、(1) 自身が主体的に取り組んだ活動について、(2) 外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）の資格・検定試験に関する取り組みについて、それぞれ200～800字で記入してください。すでにドイツ語・フランス語・中国語の検定試験に合格している場合は、証明する書類を添付してください。

英語検定試験のスコアは、審査の対象となります。技能別のスコアが記載された証明書を必ず添付してください。CEFRのA2以上であれば出願できますが、より高いスコアが望まれます。

【第2次選考】

小論文では、英語の読解力、論理的な思考力、英語・日本語の運用能力が問われます。英語の課題文を読んで、(1) 自分の意見とその理由を30～50語程度の英語で簡潔に述べた後、(2) 課題文についての自分の考えを400字程度の日本語で改めて詳しく記述します。英語での意見は、課題文の内容がきちんと理解できているか、意味の通る自然な英文で書かれているかが重要です。日本語で述べる自分の考えは、問題の所在を把握したうえで、論理的にわかりやすく表現できているかどうか、正しい日本語で記述できているかどうか採点のポイントになります。

面接試験には英語による質疑応答が含まれています。自己紹介や入学後の計画、アピールしたいポイントなどを整理し、それらを英語でもはっきり言えるよう、よく練習しておきましょう。ただし、準備してきた内容にばかり気をとられて質問をとり違えたりしないよう、落ち着いて臨むことも重要です。

[4] 史学科

(1) 募集人員

23名

(2) 出願要件

本学文学部史学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望（複数可）を強く持つこと。

- ① 日本史学に関する学修・研究
- ② 外国史学（東洋史・西洋史）に関する学修・研究
- ③ 考古学に関する学修・研究
- ④ 地域文化と景観に関する学修・研究

かつ、英語検定試験でCEFR A2以上のスコアを持つ者（P.39参照）。

【社会人受験資格および出願書類】

上記の出願要件を満たし、かつ令和4年4月1日現在、満22歳以上である者は、本人の申請に基づいて、以下の出願書類のうち③活動レポートの提出を免除する。就業経験等は問わない。

(3) 選考方法

【第1次選考】書類選考

① レポート【様式1】（2,000字程度）

史学科の各専攻分野（出願要件の①～④）のいずれかに関する主題を選び、調査・学習した内容を記述する。冒頭に主題を明記した表題をつけ、調査に当たって参照した文献・史資料を所定欄に必ず記入すること。

② 志望理由書【様式2】（1,000字程度）

表題に、史学科で学びたい動機またはテーマを明記すること。

史学科の各専攻分野（出願要件①～④）のうちの何を、どのように学びたいかを具体的に述べる。また史学科で学びたいテーマについて、これまで自主的に学んできた事柄に言及すること。

③ 活動レポート【様式3】（800字以内）

高等学校在学中に、主体的に参加、経験した以下の各項に当てはまる事柄を挙げ、それらの活動を通じて学んだこと、身についたことを簡潔に述べる。

- a) 自主的な学習・探求活動
- b) 自主的な学習・探求活動の成果としての資格・検定試験の結果、表彰、報告発表など
- c) 高等学校での部活動、課外活動、学校行事など
- d) 学校外でのボランティア活動、社会貢献活動
- e) 海外留学
- f) その他

*上の活動に関わる資格証明書、表彰状、報告書等の資料の提出は求めない。

④ 英語検定試験CEFR A2以上のスコア証明書（P.39参照）

⑤ 履歴書【様式7】（社会人受験生のみ）

【第2次選考】

① 論述試験（全体で1,000字程度の論述、90分）

英文、古文、漢文の文章題から1つを選び、与えられた課題について論述する。文章の内容を理解するとともに、その理解をもとに、自身の見解を論理的に述べる。文章の内容を理解するとともに、その理解をもとに、自身の見解を論理的に述べる。文章の内容を理解するとともに、その理解をもとに、自身の見解を論理的に述べる。さらには、出願時に作成したレポートに関する論述を課す。

② 面接試験（約20分）

大学での学修に対する目的意識、修学意欲などについて面接を行う。

※第2次選考は終日となるため、昼食を用意すること。

※「出願書類について」
(P.37～39)を必ず
熟読してください。

文学部 史学科 「選考のポイント」

【第1次選考】

①レポート

■主題の設定は適切か

レポートは読後感想文ではなく、調査研究した事柄を論証し、何らかの結論を得るものです。まず、レポートの主題を適切に選んでいるかが問われます。歴史学、考古学、地域文化と景観に関して、探求に値する主題を選ぶことが重要です。そのためには、その主題に関する研究文献、調査報告書、史資料等入手し、読解すること、あるいは自身で発掘調査等に参加した経験があるなど、主題に関する実体的な根拠があることが前提です。自分の好きなこと、という動機だけで主題が成立するとは限らないことを認識してください。

■構成は適切か

レポートの構成の基本は、主題を明示する「序論」、調査内容を論述する「本論」、論述の結果得られた主題に関する「結論」の3部構成です。段落設定を適切におこない、必要に応じて番号を振って議論を整理するなど、論点がわかりやすく整理されていることも選考のポイントです。

■論述のしかたは適切か

主題について、根拠を示したうえで合理的な説明をおこなってください。根拠のない空論や個人的見解に終始しないことが重要です。文章表現に個性があるのは当然ですが、ひとりよがりの論述や飛躍した議論は、説得力がありません。根拠に基づく公正な判断力、それをだれもが納得できる論理をもとに、適切な日本語で表現できているか、がレポートを評価するときの指標です。

■根拠を示しているか

過去におきた事柄をレポートにまとめるときには、想像ではなく、確実な根拠を示して論述することが絶対に必要です。したがって、根拠として参照した文献、史資料、調査報告書等を、正しく列挙してください。根拠資料の提示がない場合、個人的な想像と区別がつかず、レポートとして評価できません。

②志望理由書

史学科に入学した場合、出願要件①～④の分野のうちの何を、どのように学びたいかを、具体的に記載してください。その主題に関してこれまで自主的に調査研究や学習した経験がある場合は、それにも触れ、史学科を志望する理由を明確に述べてください。

③活動レポート

高等学校の学習以外で、学校の内外で自主的な活動をおこなった事柄を記載してください。a)～e)に挙げた活動のほかに、自分が主体的に参加した経験でも構いません。その活動を通して、何が身についたかを述べてください。なお、それらの活動の成果を証明する証明書や表彰状、新聞記事等の添付資料を提出する必要はありません。

【第2次選考】

①論述試験

出題された英文・漢文・古文をしっかりと読みこなし、内容を要約し(300～400字)、そのうえで、その内容について、自分の見解や意見を500～600字程度で論述します。出題文の内容が理解できなければ、自分の見解を書くことができませんので、英語・古文・漢文の読解力をつけておくことが必須です。さらに、要約する力、見解を明快に書く力、日本語表現力を磨く訓練も必要です。また、出願にあたって提出したレポートについても200字程度での説明を求めます。

②面接試験

史学科への志望動機、入学後の学生生活の抱負などを問います。史学科で何を、どのように学びたいかを明確に述べるようにしてください。

【5】哲学科

(1) 募集人員

13名

(2) 出願要件

本学文学部哲学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望（複数可）を強く持つ者。

- ①西洋古代・近代・現代の哲学、倫理学の学修・研究
- ②東洋哲学（日本哲学、インド哲学、中国哲学など）の学修・研究
- ③応用倫理学（生命倫理、環境倫理など）の学修・研究
- ④宗教思想の学修・研究
- ⑤西洋古代・近代・現代の美学、芸術哲学の学修・研究
- ⑥西洋・東洋・日本美術史、美術思想の学修・研究
- ⑦芸術学（映像論、音楽論、舞踏論、建築論など）の学修・研究

(3) 選考方法

※「出願書類について」
(P.37～39)を必ず
熟読してください。

【第1次選考】書類選考

① レポート（800字程度）【様式1】

【論 題】

書籍1冊、ないし美術作品、映画等1点を取り上げ、それについて紹介しつつ、どのような点に深く関心を持ったのか、またその理由を示すこと。なお、書籍の場合は第2次選考の課題図書とは異なるものを選び、書籍名・取り上げた作品名等は表題の欄に記入すること。

② 自己推薦書（900～1,000字）【様式2】

これまでの学習意欲と関連づけて、本学科入学後に学びたいことについて示すこと。

③ 活動レポート【様式3】（800字以内）

【第2次選考】

① 小論文試験（1,000字程度、90分）

あらかじめ次の課題図書2冊のうち1冊を選択して読んでいることを前提とした試験を行う。課題図書は、試験当日2冊とも持ち込み可とし、解答に使用する図書は問題を見た後で決定してよい（なお、図書に書き込みをすること、頁を折り曲げることは可とするが、別紙を持ち込むこと、付箋を貼ることは認められない）。

【課題図書】

[1] トゥーゲントハット ほか

『ぼくたちの倫理学教室』（平凡社新書）

[2] 伊藤亜紗

『ヴァレリー 芸術と身体の哲学』（講談社学術文庫）

② 面接試験（約20分）

大学での学問・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

※第2次選考は終日となるため、昼食を用意すること。

文学部 哲学科 「選考のポイント」

【第1次選考】

「レポート」：書籍1冊、ないし美術作品、映画等1点を取り上げ、自分がとりわけ関心を持った箇所をまとめたうえで、どのような点に深く関心を持ったのか、またその理由を800字程度で述べるものです。特に次の3点を重視して選考が行われます。

(1) 書籍や作品について、論点を絞ってしっかりとまとめられているか

取り上げる書籍や作品の内容すべてを網羅する必要はありません。自分がとりわけ関心を持った箇所がどこかを明確に示し、正確にまとめられているかを見ます。

(2) 自分なりの意見の形成ができているか

参考書等からとってきたような考えではなく、あなたが何を理解し、あなたがどのように考えたのかを書けているかを見ます。ポイントとなるのは結論に至る思考過程であって、導き出された意見が正しいかどうかではありません。

(3) 正しい日本語で、論理的に書けているか

論述は、興味や関心の異なる他人に自分の考えを理解してもらうためのものであって、書いた本人しかわからないような文章では意味をなしません。正しい日本語で、論理的に、わかりやすく思考過程を説明しなければなりません。「論理的に」というのは、「自分の考えの理由・根拠を示している」ということです。

「自己推薦書」：なぜあなたが哲学科で学ぶ必要があるかをこれまでの学習意欲と関連づけて述べるものです。自分の高校での活動記録に終始する自己推薦書は多いのですが、そのことは哲学を学ぶために絶対に不可欠なものではありません。むしろ、そうした活動や日々の思索を通じて、自分がなぜ哲学あるいは美学をより学ぼうと考えるに至ったか、具体的に何をどのように学びどのような方向性で自分の考えを深めていきたいかに選考側は関心があります。

【第2次選考】

「小論文試験」：あらかじめ読むよう示された課題図書の中から扱われている問題について、1つ論述問題が課され、指定された論題について、1,000字程度で述べるものです。当然ながら、問いは課題図書の内容をふまえたものとなりますが、小論文は問いの正解のようなものを課題図書の中から探す作業ではありません。

選考のポイントは第1次選考の「レポート」でのポイントに等しいのですが、それに加えて、提示されている課題が「いかなる問い」を扱ったものであるかを正確に把握しているかどうかを見ます。

たとえば、過去に以下のような課題が出ています。

過去の例) プラトン著・藤沢令夫訳『メノン』(岩波文庫)

問 『メノン』の冒頭において、メノンはソクラテスに対して、徳は人に教えられて学ぶことのできるものであるか、それとも教えられて学ぶことはできずに訓練によって身につけられるものであるか、それともまた、学んでも訓練しても得られるものではなく生まれつきの素質によるものか、さらにまた、そのいずれでもない仕方によるものなのか、と問うている。あなたは『メノン』を読んで、「学び」の本質についてどのように考えたかを述べよ。(1,000字程度)

上記の例であれば、「徳は人に教えられて学ぶことのできるものであるか」や、「学ぶこととはどのようなことか」といった根本問題を、まずは理解していることが必要です。そうした前提をふまえずに、たとえばプラトンの思想などについて詳細に説明できても意味はありません。課題で言及されている人物や事柄について知っていることは有益ですが、たとえ何も知らなくとも、問われている課題について深い思考ができなければなりません。そのためには、課題図書をただ読むだけでなく、そこに出てくる用語などを調べ、理解を深めておくことが必要です。

「面接試験」：哲学科への志望理由や、入学後の学生生活への抱負などを、明確に説明することが求められます。また、哲学・美学におけるトピックに関する問題についてどう思うか、いくつか問われる時があります。その場合も、とくに固有名詞などに詳しくある必要はなく、問題の所在を把握しているかどうかと、そこから論理的に自分なりの意見形成ができていくかが問われます。朗らかかどうかといった、一般的な面接試験で求められる外向的な要素はあまり重視しません。

《 神道文化学部 》 【1】 神道文化学科

(1) 募集人員

コース	募集人員
フレックスA（夜間主）	5名
フレックスB（昼間主）	9名

(2) フレックス開講制

フレックス（昼夜）開講制は、コースによりクラス指定される科目を除き、授業時間帯やキャンパスを自由を選ぶことができます。

コースは出願時に選択します。選考時には、両方のコースを選考の対象として「どちらも希望する」ことができます。また、どちらかのコースのみに限定して志願することも可能です。なお、「どちらも希望する」を選択した場合の最終合格は、「フレックスA（夜間主）コース」もしくは「フレックスB（昼間主）コース」のいずれか1コースを大学側が任意に指定します。

合否の発表は出願時の登録に基づいて行いますので、選択したコースを出願後に変更することは一切認められません。また、入学後のコース変更も認められません。なお、コースが未選択の場合は、「1. どちらも希望する」を選択したものとみなします。

1. 「どちらも希望する」
2. 「フレックスA（夜間主）コース」のみ志願する
3. 「フレックスB（昼間主）コース」のみ志願する

【授業時間帯】

本学の授業は、以下の時間帯で開講されます。

	渋谷 キャンパス	月	火	水	木	金	土	横浜たまプラーザ キャンパス
1時限	8:50～10:20							9:00～10:30
2時限	10:30～12:00							10:45～12:15
3時限	12:50～14:20							13:05～14:35
4時限	14:30～16:00							14:50～16:20
5時限	16:10～17:40							16:35～18:05
6時限	17:50～19:20							18:15～19:45
7時限	19:30～21:00							

昼開講時間帯
 共通開講時間帯
 夜開講時間帯

※1 渋谷キャンパスは、昼開講時間帯：月～金の1～4限、共通開講時間帯：月～金の5限・土の1・2限
夜開講時間帯：月～金の6・7限、土の3～7限となります。

※2 授業時間帯については、次年度以降変更することがあります。

【奨学金制度について】

「フレックスA（夜間主）コース」の入学者が、夜開講時間帯及び共通開講時間帯だけで受講する場合に対象となる奨学金制度があります。詳細はP.44を参照してください。

(3) 出願要件

本学神道文化学部神道文化学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望を強く持つこと。

志望コード	志望項目
C41	古代の神道史・神社の学修・研究
C42	近世・近代の神道思想や制度の学修・研究
C43	祭式・神社実務の学修・研究
C44	宗教・宗教文化の学修・研究
C45	比較宗教文化・国際化の学修・研究
C46	現代社会と宗教、宗教理論の学修・研究

※上記のうち主として志望するもの1つを入学志願票の所定欄に記入してください。
(入学後の学科内コース決定を制約するものではありません。)

(4) 選考方法

※「出願書類について」
(P.37～39)を必ず
熟読してください。

【第1次選考】 書類選考

① レポート（課題図書を読んだ感想文 2,000字程度）【様式1】

【課題図書】

『日本神道史』※増補新版推奨（吉川弘文館）

次の(1)～(3)から1か所を選び、内容の要約(600字程度)と自らが興味・関心をもった点について合わせて2,000字程度で論述する。

- (1) 「I. 神道とは何か」
- (2) 「II. 神道の歴史」を構成する節のうち一節
- (3) 「III. 神社分布と神道の現在」

② 志望理由書(900～1,000字)【様式2】

「出願要件」にある志望項目を選択し、その事項を表題に記入すること。

③ 活動レポート(資料添付は任意)【様式3】(800字以内)

【第2次選考】

① 授業の受講とレポート作成(120分)

授業(60分)を受け、授業内容に関するレポート(800字程度、60分)を作成する。

② 面接試験(約20分)

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

※第2次選考は終日となるため、昼食を用意すること。

神道文化学部 「選考のポイント」

出願要件6項目のいずれかについて強い関心を持ち、それへの学修・研究意欲に富み、かつ神道文化学部を選ぶ明確な理由のある人物を選考します。特に志向性と国語力を重視します。

【第1次選考】

レポート作成では、課題図書の内容を理解できるまで何度もよく読み、どのような内容の論文なのか、何に注目し、それについてどのような興味や関心を持ったのかを明記するものです。興味・関心の内容は、出願要件に示された6項目の中で志願者自身が選んだ1項目と対応していることが望まれます。ただ、「課題図書の内容は自分の興味・関心と関係ない」と決めつけ、課題図書を無視、あるいは、一語ないし一文をとりあげる程度で、自分の興味・関心を自由に論じるようでは高評価は望めません。選考したいのは神道文化・宗教文化全般に広く関心を持つ人物です。提出前には、誤字や脱字がないか、不正確な文章になっていないかを、よく見直してください。面接ではレポートに関する質問をしますので、レポートを複写して手元にとっておき、はっきりとした口調で明確に答えられるよう練習しておきましょう。興味・関心を筋道立てて分かりやすくまとめているか、文献や実体験に基づいた根拠を示しながら論述しているかもチェックポイントです。

なお、毎年、コミック本・SF本等によりイメージ化された神主や巫女などに興味をもって受験する方がいますが、課題図書以外に専門的な図書を1冊も読まず、漠然としたイメージを持っただけでは適格者とは認められませんので、あらかじめ注意してください。

【第2次選考】

授業の受講とレポート作成は、みなさんが大学での講義についていけるかを判断するものです。授業のポイントをよくおさえた、誤字や脱字のない正確な文章(800字程度)を作成できるよう、日頃から準備しておきましょう。

面接試験では、自分の志望動機・入学後の目標・卒業後の展望等について、筋道を立てて伝えることが重要です。レポートに関する質問をすることがありますので、レポートの内容を明確に答えられるように準備しておきましょう。また神道の基礎知識を問う場合もあるので、神道に関わる書籍を前もって自主的に読み込んでおくことも大切です。

《 法 学 部 》 【1】 法律学科

(1) 募集人員

専攻	募集人員
法律専攻	26名
政治専攻	2名

(2) 出願要件

法律学・政治学に強い関心を持ち、その勉学に積極的・自発的に取り組み、学ぶ意欲があること。なお、高等学校での学習成績の状況（旧評定平均値）などの学業成績は、条件としない。

(3) 社会人に対する
第1次選考の免除

出願要件を満たし、かつ次の条件を満たす者は、本人の申請に基づいて、第1次選考を免除する。

令和4年4月1日現在において、満22歳以上で、かつ職についていること（パートおよびアルバイトならびに令和4年4月1日からの就職内定を含む）、または主婦もしくは主夫であること。ただし、令和4年4月1日現在において満24歳未満の者については、令和3年4月1日以前から職についていること（パートおよびアルバイトを含む）、または主婦もしくは主夫であること。

※免除申請者は、履歴書および在職証明・推薦書【様式7】を提出する必要があります。また、エントリーシート【様式5-法】およびレポート【様式1】は、第2次選考のために必要ですので、必ず提出してください。（出願書類の詳細については、P.37～39をご参照ください）

(4) 選考方法

[第1次選考] 書類選考

※「出願書類について」
(P.37～39)を必ず
熟読してください。

① エントリーシート【様式5-法】

「志願理由について」、「あなた自身のこと」、「社会への関心」という3つの項目につき、所定の様式に従って記入してください。

② レポート〔ALT（アカデミック・リテラシー・テスト）型レポート〕
【様式1】（1,200～2,000字）

《レポート作成の注意事項》

- ★ 【様式1】に手書きで記入してください。パソコン等を利用して作成する場合には、A4サイズの用紙に40文字×40行でプリントアウトし、【様式1】を表紙として本文以外の箇所を記入し、1枚目に付けて提出してください。なお、表題をつける必要はありません。
- ★ レポートを作成するにあたり参照した文献名やウェブページのURL等は、【様式1】の「注（参考文献）」にリストアップしてください。
- ★ レポート等は、第2次選考の面接の際に必要となりますので、必ずコピーなどを手元に残し、試験当日に持参するようにしてください。

【レポート課題】

現行民法750条は、「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する。」として夫婦同氏制度を定めています。この制度をめぐっては、現在まで、これを改めるべきとする見解と維持すべきとする見解が対立しています。

平成8年2月に法制審議会が公表した「民法の一部を改正する法律案要綱」では、選択的夫婦別氏制度の導入が提言されました。また、国連女性差別撤廃委員会は、平成15年、同21年、同28年の3度に渡り、日本政府に対し、夫婦同氏制度の是正を勧告しました。司法分野では、民法750条の合憲性が争われた裁判で、最高裁判所（平成27年12月16日他）は、この規定を合憲と判断しましたが、同時に、選択的夫婦別氏制度について、「国会で論ぜられ、判断されるべき事柄」であるとししました。他方、これらの裁判を担当した裁判官の中には、反対の意見を述べた人もいました。行政分野では、第4次男女共同参画基本計画（平成27年12月25日閣議決定）における「男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し」の具体的な取組みの一つとして、選択的夫婦別氏制度の導入が挙げられていました。その後、第5次男女共同参画基本計画（令和2年12月25日閣議決定）では、選択的夫婦別氏制度の導入は言及されていませんが、夫婦の氏に関する具体的な制度の在り方に関し、更なる検討を進めることとされています。

そこで、以下の内容を含むレポートを、1,200～2,000字で作成してください。なお、あなたがどのような立場をとるかは、合否と関係しません。

- (1) 選択的夫婦別氏制度とは何ですか。
- (2) 選択的夫婦別氏制度を要請する声が高くなるようになった社会的・経済的な変化としてどのようなものが挙げられていますか。紹介してください。
- (3) 選択的夫婦別氏制度を導入すべき根拠・理由としてどのようなものが挙げられていますか。紹介してください。
- (4) 夫婦同氏制度を維持すべき根拠・理由としてどのようなものが挙げられていますか。紹介してください。
- (5) 以上を踏まえて、あなたは、法律婚における夫婦の氏をどのように決めべきと考えますか。反対意見にも言及しつつ、論じてください。

③ 履歴書および在職証明・推薦書（社会人に対する第1次選考免除申請者のみ） 【様式7】

【第2次選考】

① 自己アピール（5～10分）

いかに自分が國學院大學法学部で学ぶ意欲を有しているか、そして入学に値する人物であるかを口頭でアピールする。

② 面接試験（約20分）

第1次選考の際に提出したレポートやエントリーシート、また自己アピールの内容等に関する質問に回答する。

※レポートを作成する際に利用したパソコンや文献等はすべて会場に持ち込むことができます。なお、電源や投影用のプロジェクター・スクリーン等の提供はできませんのでご注意ください。

法学部 「選考のポイント」

【第1次選考】

(1) エントリーシート

志願理由や自己推薦理由といった、本来であればたくさん書きたいことを、限られたスペースに要領よくまとめて書かなければなりません。そのためには、自分は何のために大学に入って法律や政治を勉強したいのかや、自分のどんなところを評価してもらいたいのかなどを、じっくりと考えて、明確にしておく必要があります。そして、読み手に的確に伝えることのできる文章になっているかよく考えて記述しましょう。

(2) レポート〔ALT (アカデミック・リテラシー・テスト) 型レポート〕

ALT型レポートでは、①文献等を正確に読めるか、②収集した情報を一定の基準に従って整理・分類できるか、③整理・分類した情報をテーマに則して的確に分析できるか、そして④分析結果に基づいて論理的に結論を導き出し、明確に表現できるかどうか、という4点が重要になってきます。とはいえ、最初から構えて完璧主義を貫こうとすると挫折しやすいので、ある程度文献を収集した段階で、ひとまず書いてみることをお勧めします。その後、第三者の視点で欠陥を発見し、文献をもう一度読み直したり、書いた文章を修正したりするプロセスを何度か繰り返し、完成度を高めていくとよいと思います。

参考となる文献またはウェブページ (例)	データ
・二宮周平『18歳から考える家族と法』(法律文化社)(とくに28頁以下)	ISBN 978-4-589-03962-0
・阪井裕一郎『事実婚と夫婦別姓の社会学』(白澤社)	ISBN 978-4-7684-7986-5
・法務省ホームページ「選択的夫婦別氏制度(いわゆる選択的夫婦別姓制度)について」 http://www.moj.go.jp/MINJI/minji36.html (最終アクセス:2021年6月26日)	
・北原零未「夫婦別姓は何故『嫌われる』のか?」社会科学研究所年報21巻243頁(2016年) https://chuou.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=8729&item_no=1&page_id=13&block_id=21 (最終アクセス:2021年6月26日)	
・黒田樹里「夫婦の氏に関する一考察:子の氏の変更を中心に」國士館法学第51巻227頁(2018年) https://kokushikan.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=14153&item_no=1&page_id=13&block_id=21 (最終アクセス:2021年6月26日)	
・笹川あゆみ「選択的夫婦別姓制度は何故実現しないのか:『女性活躍推進』の陰で」 武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要9号185頁(2019年) https://mu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1025&item_no=1&page_id=13&block_id=21 (最終アクセス:2021年6月26日)	
・富田哲「夫婦別姓論その後:30年の軌跡」行政社会論集 32巻4号169頁(2020年) https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/R000005408/2-555.pdf (最終アクセス:2021年6月26日)	
・二宮周平「生き方の多様化を支える家族法をめぐって ―選択的夫婦別姓,同性カップル,性別の変更を考える―」香川法学33巻1・2号17頁(2013年) http://shark.lib.kagawa-u.ac.jp/kuir/metadata/27613 (最終アクセス:2021年6月26日)	
・増原啓司「夫婦別氏制批判」中京法学32巻2号25頁(1997年) https://chukyou.repo.nii.ac.jp/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&page_id=13&block_id=21&item_id=14809&item_no=1 (最終アクセス:2021年6月26日)	

【第2次選考】

(1) 自己アピール

記述中心の第1次選考と違って、第2次選考では口頭で説明する力が試されます。まずは、エントリーシートで記述した自己推薦理由などを口頭で説明する自己アピールです(プレゼンテーションとも言います)。5分以上10分以内と時間が限られていますので、要領よく、しかし説得力のあるアピールをすることが肝要です。もっともアピールすべきことは、「あなた自身がいかにか國學院大學法学部で学ぶ意欲を有しているか、そして入学に値する人物であるか」ですから、國學院大學の校風などを延々と

述べてもあまり評価は高くならない点に注意してください。それから、プレゼンテーションの方法を工夫することも大事です。コンピュータ、AV機器、フリップなどを使ったプレゼンテーションは、うまくいけば、より効果的なアピールになりますが、必ずそうしなければならないわけではありません。まずは自分のアピールしたい内容をしっかりと決め、それとのバランスを考えて方法を選択した方がよいといえるでしょう。

(2) 面接試験

面接では、自己アピールや第1次選考のために書いたレポート（ALT型レポート）等についての質問を受けることになります。具体的には、あなたのレポートの内容について疑問と思われる点、レポートに書かれていないけれど重要な点、関連する事項についての補足的な説明を求められることになるでしょう。それらに適切に答えるためには、提出した後も、テーマについて継続的に情報を収集し、自分のレポートを見直しておくことが大切です。そして、書いていたときには気づかなかった問題点を発見したり、提出後に新たな事態が生じて事情が違ってきている場合などには、速やかにその点を補足、訂正しておくことが重要です。

《 経済学部 》 【1】 経済学科 【2】 経営学科

(1) 募集人員

学 科	募集人員	
経済学科	K-ENT 研究発表型	22名*
	K-ENT 課題レポート+面接型	
経営学科	K-ENT 研究発表型	22名
	K-ENT 課題レポート+面接型	

*経済学科の募集人員は K-ENT 高大接続型を含む。

(2) 出願要件

以下の2つのコースともに、公募制自己推薦（AO型）のアドミッション・ポリシーの内容を十分に理解したうえで、以下の [1] [2] の要件を必ず満たすこと。

[1] 高校での学習や生活の中で、経済や経営の現状や歴史に関する研究・授業・諸活動の経験を踏まえた明確な問題意識を持っている者。

[2] 自らの卒業後の具体的な将来像を持ち、その将来を実現するために、なぜ経済学科・経営学科を選択し、そこで何を学ぼうとするのか明確である者。

志望コード	志望コース
K01	K-ENT 研究発表型
K02	K-ENT 課題レポート+面接型

入学志願票の志望・活動コード欄に出願する志望コードを記入してください。

[3] 以下のいずれかの資格・スコアを有する者。

① 英語検定試験でCEFRのA2以上のスコア（P.39参照）。

② 日本数学検定協会主催の実用数学技能検定で2級以上。

③ 下記a・bの両方

a 全商協会主催の簿記実務検定試験1級（会計および原価計算）

b 全商協会主催の英語検定試験2級以上

※ aの要件は、日本商工会議所主催の簿記検定試験2級以上もしくは全国経理教育協会主催の簿記能力検定1級以上に代替可とする。

(3) 併願について

K-ENT 研究発表型・K-ENT 課題レポート+面接型・K-ENT 高大接続型を併願することはできません。また、いずれのコースも経済学部の他学科を併願することもできません。

(4) 選考方法

※「出願書類について」
(P.37～39)を必ず
熟読してください。

K-ENT研究発表型

■出願要件

学習成績の状況3.8以上を満たした上で、経済学部各学科のアドミッション・ポリシー (P.5～6参照)のいずれかふさわしい目的をもち、それに関する研究成果を発表内容として準備できる出願者を選考する。

経済学科は地域経済コース、経営学科はビジネスクリエイターコースを志望する者に限ります。

■選考方法

[第1次選考] 書類選考

①調査書

②活動レポート【様式3】

学内外問わず過去3年間程度で主体的に取り組んだ活動を1つ選び、800字以内で記入してください。また、活動に関する資料があれば、任意で添付してください(添付方法はP.37を参照ください)。

③自由テーマレポート【様式1】

志望する学科のアドミッション・ポリシー (P.5～6参照)のうち志望するコースに対応するものを選択して、それに対応する発表テーマを自分で決めて、3,000字程度のレポートを作成する。レポート報告内容の要約が望ましいが、報告までにさらに検討したい課題が残っている場合は計画書のようなものが含まれていても構わない。題目欄に題目を記入した後、その下にどのアドミッション・ポリシーを選択したか明記すること。

図表は3点までとする(写真は不可)。1点につき200字に換算する。図表はプリントアウトもしくはコピーして用紙の後ろにホチキスで止めること。それぞれ1つの図表ごとに出典を明記すること。

④エントリーシート【様式5-経済】

以下の6項目について、所定の書式にしたがって書いてください。

- (1) 高校の授業の中で印象に残ったことについて書いてください。
- (2) (1)以外に高校生活で身につけたアピールできること(資格・特技など)について書いてください。
- (3) 本学を知ったきっかけを書いてください。
- (4) 経済学部および選んだ学科を志望した理由を書いてください。
- (5) 大学生活における目標と卒業後の進路について書いてください。
- (6) (4)(5)を踏まえて残りの高校生活で何をすべきか考えたことを書いてください。

[第2次選考]

①研究発表・面接試験(発表時間15分、質疑・面接試験15分)

提出した研究レポート(第1次選考③)について、少人数の面接官の前で15分の発表を行う。提出時に検討しきれなかった課題も完成させて発表すること。当日使用資料については、次ページを参照すること。

《研究発表時の注意事項》

★当日使用資料について

発表用の資料（図表など）を用意する場合は同じものを3部用意すること。レポートに明記されていない出典資料を新たに利用した場合は、出典資料を必ず明記すること。

★機材等の使用について

レポート作成の際に使用したコンピュータや文献はすべて持ち込むことができる。

* 質疑においては、あくまで発表内容を中心に行うが、エントリーシートの内容について質問することもある。

K-ENT 課題レポート+面接型

■出願要件

学習成績の状況4.0以上を満たした上で、経済学部各学科のアドミッション・ポリシー（P.5～6参照）に基づいた、以下の課題のいずれかを選択し、与えられたアウトラインに沿ってレポートを準備・作成できる出願者を選考する。

■選考方法

[第1次選考] 書類選考

①調査書

②活動レポート【様式3】

K-ENT 研究発表型の②と同じ。

③課題レポート【様式1】

指定の課題の中から1つを選択し、本学所定用紙【様式1】に3,000字程度で作成する。各学科に即した問題が設定されているので、自分の受けたい学科の中から1つ選択して、その問題に答える形でレポートを作成すること。選択した課題名を所定の位置に記入し、課題区分に○をつけること。

課題レポートの詳細は、本学ホームページ上に掲載します。以下のURLもしくはQRコードにて「総合型選抜・学校推薦型選抜」のページにアクセスのうえ、「公募制自己推薦（AO型）」で経済学部の選考方法を参照すること。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/admissions/p2/p2>



④エントリーシート【様式5-経済】

K-ENT 研究発表型の④と同じ。

[第2次選考]

①面接試験（約20分）

初めに5分程度で、課題レポートの内容の要点と自分が主張したいことについて説明してもらい、質疑応答を行う。提出した課題レポートに関する質疑応答が中心となるが、エントリーシートに書かれた内容について質問をする場合もある。

社会人対象の選考（K-ENT 課題レポート＋面接型準用）

■出願要件

令和4年4月1日時点で、満22歳以上であること。就業経験は問わない。

■選考方法

[第1次選考] 書類選考

①課題レポート【様式1】

K-ENT 課題レポート＋面接型③と同じ課題の中から1つを選択し、本学所定用紙【様式1】に3,000字程度で作成する。各学科に即した問題が設定されているので、自分の受けたい学科の中から1つ選択して、その問題に答える形でレポートを作成すること。課題レポートの詳細は、本学ホームページ上に掲載します。

以下のURLもしくはQRコードにて「総合型選抜・学校推薦型選抜入学試験」のページにアクセスのうえ、「公募制自己推薦（AO型）」で経済学部の選考方法を参照すること。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/admissions/p2/p2>



②社会人向けエントリーシート【様式5－経済（社）】

- (1) 高校卒業後の諸活動において特に努力したといえることについて書いてください。
- (2) 高校卒業後の諸活動において印象に残ったことについて書いてください（(1)と連動してもしなくても可）。
- (3) (1)(2)以外に身につけたアピールできること（資格・特技など）について書いてください。
- (4) 本学を知ったきっかけを書いてください。
- (5) 経済学部および選んだ学科を志望した理由を書いてください。
- (6) 大学生活における目標と卒業後の進路について書いてください。
- (7) (5)(6)を踏まえ入学までで何をすべきか考えたことを書いてください。

③活動レポート【様式3】

K-ENT 研究発表型の②と同じ。

[第2次選考]

①面接試験（約20分）

初めに5分程度で、課題レポートの内容の要点と自分が主張したいことについて説明してもらい、質疑応答を行う。提出した課題レポートに関する質疑応答が中心となるが、エントリーシートに書かれた内容について質問をする場合もある。

経済学部 「選考のポイント」

①アドミッション・ポリシーについて

経済学部アドミッション・ポリシー（P.5～6参照）をよくお読みください。学部のアドミッション・ポリシーは、入学にあたっての基本的に必要とされる能力、学科のアドミッション・ポリシーは、大学に入ってからみなさんが学ぶ授業に直結する興味・関心を示しています。しかし、志望する学科のアドミッション・ポリシーのすべてに当てはまる必要はなく、少なくとも1つが該当すればよいということもご理解ください。学科のアドミッション・ポリシーの中で1つでも気になる事項があったらそれを掘り下げる姿勢が重要です。

②エントリーシートについて

エントリーシートは細かい6項目のそれぞれの枠にしたがってそれぞれあまり詳しく書きすぎず、目安は各5行程度で、ポイントを絞ってわかりやすく書くことを心がけてください。

③K-ENT研究発表型について

研究レポートのテーマは、各自で設定していただくものですが、経済学部アドミッション・ポリシー（P.5～6参照）のいずれかに対応した適切なテーマであることが求められますので、よくお読みいただき、十分注意して作成してください。また、3,000字および20分の発表で収まるようにテーマを絞ることが必要になります。当然のことですが、文献やホームページの丸写しは厳禁です。引用した参考文献とホームページのアドレスは必ず明記してください。

発表においては、レポートを読み上げるのではなく、自分の言葉を付け足したり特に言いたいことを強調する工夫をしたりなど発表する相手に伝わる発表の仕方を心がけてください。

④K-ENT課題レポート+面接型について

課題レポートは、大学に入ってから学べるすべての内容に対応してはいませんが、基本的な姿勢を問うものです。課題においては、調べる手順および適宜参考文献が指示されていますのでそれに従ってレポートを作成してください。トータルで3,000字程度を超えないようご注意ください。引用した参考文献とホームページのアドレスは必ず明記してください。

面接に際しては、初めに5分程度で作成したレポートの概要を説明していただきます。基本的にはレポートの内容について質問しますが、大学に入ってから学びとの関連で、エントリーシートに関する質問をする場合もあります。

(1) 募集人員

学 科	募集人員
初等教育学科	14名
健康体育学科	18名
子ども支援学科	13名

(2) 出 願 要 件

【初等教育学科】

本学人間開発学部初等教育学科で学びたいという意欲を強く持ち、自ら学ぼうとする学修意欲及び日本の教育への関心と理解を有し、教育の諸領域における各種問題に関する専門的な知識の修得を目指して「教育の専門家」として小学校教諭を志す意欲の高い者。

【健康体育学科】

本学人間開発学部健康体育学科で学びたいという意欲を強く持ち、「健やかな人生が人々の幸せにつながるという理念」や、「健康保持・増進のための重要な要素である身体運動」、「胎児から寿命を全うするまでの全期間に関わる身体諸機能のあり方」に関心があり、中・高等学校の保健体育教諭、健康やスポーツ分野のリーダーを目指す者。

【子ども支援学科】

本学人間開発学部子ども支援学科で学びたいという意欲を強く持ち、子ども・子育て支援への関心を有し、幼児教育・保育の領域に関する専門的な知識や技術を意欲的に学び、幼稚園教諭・保育士を志す者。

(3) 選 考 方 法

※「出願書類について」(P.37～39)を必ず熟読してください。

【第1次選考】 書類選考

① レポート (2,000字程度) 【様式1】

人の育ちを支援するという観点から自らが目指す将来像について、考えをまとめて記述しなさい。必ず表題をつけること。

② 活動報告書および添付資料目録 【様式4】

資格取得や検定試験合格、あるいはスポーツなどで顕著な成績を有している場合には、添付資料目録に記載し、必ず証明書等のコピーを添付すること。

③ エントリーシート 【様式5－人間開発】

④ 活動計画書 (600字以内) 【様式6】

本学入学後の活動計画について具体的に600字以内で記入すること。

【第2次選考】

① 小論文試験 (説明を含めて90分、1,000字程度)

試験に関する説明 (10分程度) を受けた後、小論文 (1,000字程度) を作成する。

② 面接試験 (約15分)

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

③ 実技試験 (5分以内) 【子ども支援学科のみ】 ※撮影した動画を事前に提出

子ども向けのパフォーマンス (手遊び・うた・お話・遊戯など) を、その意図について簡単に説明したうえで実演すること。用具が必要な場合は各自持参すること。なお、動画の投稿方法は第一次選考合格者に別途通知します。

(令和3年9月30日変更)

※第2次選考は終日となるため、昼食を用意すること。

人間開発学部 「選考のポイント」

人間開発学部としては、「人間の能力開花、開拓」に関心があり、「幼稚園教諭・保育士、小学校教諭、中学校・高等学校の保健体育教諭、あるいは健康やスポーツ分野のリーダーになりたい」という強い意欲を持つ人に入学してほしいと考えています。「人間開発」という言葉には、さまざまなストレスやプレッシャーなどにより閉じられたままになっている能力や才能を「弾ける」「拓く」「拡がる」ように引き出し、「開花させる」という意味が込められています。それゆえ生徒や指導の対象となる人の「頑張ることを応援する教育」に向けて積極的に勉強する人の意欲を評価したいと思います。

本学部のこのような目的を達成するために、レポート課題に関連したことを調べ、卒業後の進路を含め、自分の考えをまとめておく必要があります。

【第1次選考】

レポートの作成にあたっては、次の点に留意してください。

- a. 広く書物や文献などを利用して関連する内容について調べること
- b. 論理的な道筋を立てた内容とすること
- c. 読む人にわかりやすく伝わる文章にすること
- d. 自分の経験や考えも含めること
- e. 利用した資料は、書名や著者、発行年月日などがわかるように出典を明確に記載すること

【第2次選考】

小論文試験では、上記のレポートに関する留意点bとcに準じた解答であることが望ましいです。面接試験では、学部・学科に対する志向性および学生生活、卒業後の進路について、今後の展望を持っていることが望ましいでしょう。子ども支援学科の実技試験では、子どもに向けて伝えようとする工夫と意欲が感じられるものであることが必要です。

6. 出願書類について

- 出願に必要な書類を全てそろえ、本学所定の出願封筒用ラベルを使用し、速達・簡易書留で入学課宛に送付してください。
- 提出書類は順番に重ねて提出してください（ホチキスで留める必要はありません）。記入の際は、ペンまたはボールペンを使用してください（鉛筆書き不可）。
- 全ての書類は出願者本人が作成してください。
- 一度提出した書類および入学検定料は、返還しませんので、ご注意ください。

<提出書類様式および一覧>

学部	学科・専攻	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	—	⑧	⑨	⑩	
		入学 志願票	各種 証明書	資格・ スコアを 証明する 書類	様式1 レポート	様式2 自己推薦書 志望理由書	様式3 活動レポート・ 添付資料目録	様式4 活動報告書・ 添付資料目録	添付資料	様式5 エントリー シート	様式6 活動 計画書	様式7 履歴書 在職証明 推薦書	
文	日本文	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×
	中国文	○	○	×	×	○	○	×	×	×	×	☆	×
	外国語文化	○	○	○	×	○	○	×	○	×	×	×	×
	史	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	☆	×
	哲	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×
神道文化	神道文化	○	○	×	○	○	○	×	△	×	×	×	×
法	法律専攻	○	○	×	○	×	×	×	×	○	×	☆	☆
	政治専攻	○	○	×	○	×	×	×	×	○	×	☆	☆
経済	経済	○	○	○	○	×	○	×	△	○	×	☆	×
	経営	○	○	○	○	×	○	×	△	○	×	☆	×
人間開発	初等教育	○	○	×	○	×	×	○	△	○	○	×	×
	健康体育	○	○	×	○	×	×	○	△	○	○	×	×
	子ども支援	○	○	×	○	×	×	○	△	○	○	×	×

○：出願者全員が必ず提出する書類

△：任意提出の書類

☆：社会人の出願者が提出する書類

×：提出不要

<資料添付時の注意【様式3・4】>

様式3・4について、活動等に関する資料があれば、資料に番号・資料名をつけ、各様式の「添付資料目録」に資料名を記入してください。

添付資料の要・不要については、各学科のページまたは上表を確認してください。提出が必要（任意提出を含む）な学科は、添付資料がない場合も、添付資料目録の該当欄のみ記入してください。

資料は可能な限りA4サイズに統一し、サイズの違うものはA4サイズ用の用紙に貼付してください。

（提出された書類・資料は返却できません）。

ホチキス留めのできない資料を添付する場合には、資料番号を明記して同封してください。

<添付資料例>

創作や研究発表を掲載した雑誌・新聞の切り抜き、写真、活動の成果や記録のコピーなど。なお、必ずしも正式なものである必要はありません。

※活動内容が職業である場合には、できる限り在職・就業証明書（様式自由）を添付してください。

① 入学志願票 【本学所定用紙】	「入学志願票記入例」(P.40～42)を参照してください。 ★入学志願票を全て記入のうえ、入学検定料を振込み、提出してください。	
② 各種証明書	出願前3ヶ月以内に発行された書類を提出してください。	
	高等学校(特別支援学校の高等部を含む)又は中等教育学校を卒業した者、及び令和4年3月卒業見込みの者	出身(在籍)学校長が発行した「調査書」(学校所定用紙、開封無効) 既卒生の場合、卒業後に発行されたもので可(卒業見込で発行されたものは不可) 卒業後5年以上経過などの理由により、調査書が発行できない場合は「卒業証明書」を提出すること。
	高等学校卒業程度認定試験もしくは大学入学資格検定の合格者・合格見込みの者	「合格証明書」 (合格見込者は「合格見込成績証明書」)
	外国における12年の課程を修了した者又は修了見込みの者	「修了(見込)証明書」と「成績証明書」 ※日本と外国両方の高等学校に在籍した場合は、日本の高等学校在学中の「調査書」も合わせて提出してください。
③ 資格・スコアを証明する書類 (文学部外国語文化・史学科、経済学部)	出願資格を証明する書類を添付してください。証明書は原本またはコピーでも構いません。ただし、コピーの場合は、原本からの正しい複製であることが、出身(在籍)高校によって証明されたもの(Certified True Copy)に限ります。作成手順は以下の通りです。 i. 在籍学校が証明書の原本であることを確認し、コピーをとる(カラー・白黒は問いません)。 ii. 証明書のコピーの余白に、「原本と相違ないことを証明する」旨の文言を記載の上、在籍学校の印または学校長の印を押印する。 iii. 在籍学校が厳封(調査書と同封可)する。	
④ レポート 【様式1】	内容・文字数の指定は各学科の該当ページを参照してください。	
⑤ 志望理由書 自己推薦書 【様式2】	「大学での勉学・研究に対する目的意識と意欲」または「継続的な努力をしている活動内容とそれを大学での学修にどのように役立てられるか」等を自己推薦文として主張してください。内容・文字数の指定は各学科の該当ページを参照してください。表題は指示がない場合は付けてください。	
⑥ 活動レポート・ 添付資料目録 【様式3】	学内外問わず、過去3年間程度で主体的に取り組んだ活動を1つ選び、800字以内*で記入してください(活動が団体によるものである場合は、本人の役割を明確にしてください)。 添付資料は5点までとし、詳細はP.37を確認してください。 ※内容・文字数の指定は、各学科の該当ページを参照してください。	
⑦ 活動報告書・ 添付資料目録 【様式4】	これまでに自らが行ってきた活動等で活躍や努力したものについて、その内容を記入してください(活動が団体によるものである場合は、本人の役割を明確にしてください)。 添付資料については、P.37を確認してください。	
⑧ エントリーシート 【様式5】	各項目について、簡潔に記入してください。	

(注意⑨～⑩はP.39参照)

⑨ 活動計画書 【様式6】	学部・学科におけるの勉学・研究に対する目的意識と意欲、将来の目標など、入学後の活動計画について、具体的に600字以内で記入してください。
⑩ 履歴書 在職証明・推薦書 【様式7】	履歴書は高等学校卒業以降、現在までの経歴を漏れなく詳細に記入してください。 法学部については、履歴書と在職証明書は合わせて提出することが望ましいですが、主婦・主夫である場合、または職種やその他の事情により提出ができない場合には、その旨を履歴書に明記し、在職証明書は未記入のまま提出してください。なお、その際は、推薦書に推薦人（本人以外の誰でもよい）の署名・捺印が必要となります。

外部英語検定試験のスコア・級数について

本入試制度で出願要件としている「CEFR A2 以上」の基準値は以下のスコアを参考値とします。
スコア・級は高校在学中に取得したものを有効とします。

検定試験名	スコア・級数	成績表	備考
実用英語技能検定 (英検)	CSE2.0 スコア 1,700以上	合格証明書または CSEスコア証明書 ※個人成績表は不可	従来型・新方式 [S-CBT,S-Interview] いずれも可。 ただし、受験級は準2級以上であること。
TOEIC® (英検) L&R及びS&W	スコア 385点以上	Official Score Certificate	TOEIC®L&R及びS&Wの両検 定試験の受験及びスコアを必 須とする。
GTEC	スコア 690点以上	Official Score Certificate	オフィシャルスコアに限る。 GTEC (CBTタイプ) は、 GTEC (4技能) として扱う。
TEAP (R/L+W/S)	スコア 135点以上	成績表	異なる試験日のスコアは合算 できない。
TEAP CBT	スコア 235点以上	成績表	
ケンブリッジ英語 検定	スコア 120点以上	合格証明書	ケンブリッジ英語検定4技能 CBT (Linguaskill)は不可。

下記の検定試験は、B1以上のスコアを持つ場合のみ可とします。

検定試験名	スコア・級数	成績表	備考
TOEFL® iBT	スコア 42点以上	Examinee Score Report, Official Score Reports (Institutional Score Report)のいずれか*1	
IELTS (アカデミック・ モジュール)	オーバーオール・バン ド・スコア4.0以上	Test Report Form *2	

*1 TOEFL® iBT の Official Score Reports (Institutional Score Report) は、ETS より本学へ直送の手続きを行う必要があります。Institution Code はC803、Department Code は00です。

*2 IELTS の Test Report Form について、テストセンターからの直送制度を利用する場合、送付先の機関名を Koku-gakuin University、担当部署を Admissions Office とし、渋谷キャンパス宛に郵便での送付を依頼してください。

7. 入学志願票記入例 ※写真票もこれにならって記入してください。

記入例は、文学部日本文学科を選択する場合のものですが、他の制度・学科を選択した場合もこれにならない、ボールペンを使用して各票の太枠内をもれなく記入してください（網かけされている欄は未記入のままで結構です）。なお、提出後の変更は一切認められませんので、ご注意ください。

- ★ 入学志願票を全て記入の上、入学検定料を振込み、出願してください。
- ★ 写真票には写真（縦4cm×横3cm）を必ず貼付してください。
- ★ 記入を間違えた場合は修正液（ホワイト）を使用しても構いません。但し、入学検定料（振込金額）を訂正する場合は、二重線で消し、その上に銀行等の窓口で訂正印を押してもらい、欄外に正しい金額を記入してください。

志願票

國學院大學（総合型選抜・学校推薦型選抜）入学志願票

入試制度											
出願する試験制度の番号に○を付け、必要事項を記入してください。											
1 公募(AO) 経済学部以外	2 公募制(AO) 経済学部 K-ENT方式	3 研究発表型 レポート+面接型 高大接続型	4 スポーツ	5 指定校	6 全商協会	7 社会人	8 神道・宗教	9 神職養成	10 神道学 専攻科	11 学士	12 一般編入
13 院友子弟	14 セカンド キャリア	15 別科I類	16 別科II類	出願方法 1 神道 2 宗教 (A)(B)		17 外国人 留学生	18 系列・指定校 (選抜推薦)	19 系列校 (選抜推薦)	20 系列編入		
志望コード コード C 3 3		活動コード イ ロ ハ		経済学部 志願タイプ		国籍コード		日本留学試験受験番号			
↓記入例に従って該当欄に記入してください(選択項目には該当する番号に○を付けてください)。											
志願データ											
受験番号 ※						系列三高校(選抜推薦)志願者のみの貼付 大学入学共通テスト成績請求票貼付欄 私・短 私立大学・ 公私立短期大学用 大学入学共通テスト受験票とともに交付された 成績請求票を貼付してください。					
入試コード ※ D I I A						【公募(AO)社会人出願者のみ】					
学部	文					入試制度[1]・[7](1期)・[2]の 神道文化化学科志願者のみ 番号に○を付けてください。					
学科	日本文					・第1次選考免除 (中国文学科・法律学科) 1 希望する					
専攻 (専攻科・別科)						・活動レポート免除 (史学科) 2 希望しない					
フリガナ	ワカキ、 ショウ					性別	① 男 生年 月 日				
漢字	若木 翔					電話	自宅 045-XXXX-XXXX 携帯 080-XXXX-XXXX				
氏名											
志願者住所	神奈川県 横浜市青葉区新石川3-22-1 若木ヒルズ 101 〒225-0003 メールアドレス kokugakuin@xxx.xx										
履歴	出身高等学校等		高等学校等コード	課程	学科	卒業年(西暦)	月	入学検定料(振込金額)			
	國學院		13550A	I	I	2022	03	¥ 3 5 0 0 0			
	出身大学(短大)・学部・学科				卒業年(西暦)	月					

- ボールペンを使用して記入してください。間違えた場合は修正液を使用しても構いません。但し、入学検定料（振込金額）を訂正する場合は、二重線で消し、その上に銀行で訂正印を押してもらい、欄外に正しい金額を記入してください。
- 濁点なども1文字として楷書で記入してください。
- 振込金額は、入試制度によって異なりますので、必ず要項をご確認ください。
- ATMからの振り込みはできません。必ず銀行等金融機関の窓口で手続を行ってください。
- 取扱店の取納印が無いものは無効です。

個人情報取り扱い確認欄
個人情報の取り扱いに関する「振込金
兼手数料受取書(本人保存)」の記載を
読み、同意しない場合のみ、✓を記入し
てください。

同意 しない



(1) 記入上の注意

- ①出願する入試制度に○をつけてください。
- ②各種コード一覧を参照し、入試コード・学部・学科を記入してください。専攻欄は法学部のみ、コース欄は神道文化学部のみ記入してください。
- ③氏名は常用漢字を使用し、楷書で記入してください。
- ④濁点・半濁点も1文字として記入してください。
- ⑤生年月日・卒業年月は必ず西暦で記入し、月日が1桁の場合は、その数字の前に「0」を入れ、2桁で記入してください。
- ⑥住所は受験番号通知書等の送付先となるので、アパート・マンション名まで正確に記入してください(丁目・番地・号は「-」で記入してください)。
- ⑦電話番号(日中連絡のとれるもの)は、市外局番・局番・加入番号それぞれの間を「-」で区切って記入してください。
- ⑧メールアドレスは正確に記入してください。また、文字の判別がしやすいように、適宜フリガナ等で補足してください(例:アルファベットのO<オー>と数字の0<ゼロ>など)。

(2) 各種コード一覧

学科	学科	コース・専攻	入試コード
文	日本文	-	D 1 1 A
	中国文	-	D 1 1 E
	外国語文化	-	D 1 1 F
	史	-	D 1 1 B
	哲	-	D 1 1 D
神道文化	神道文化	フレックスA (夜間主)	D 1 4 A
		フレックスB (昼間主)	
法	法律	法律	D 1 2 A
		政治	D 1 2 C
経済	経済	-	D 1 3 A
	経営	-	D 1 3 C
人間開発	初等教育	-	D 1 5 A
	健康体育	-	D 1 5 B
	子ども支援	-	D 1 5 C

※中国文学科・外国語文化学科・史学科、法学部・経済学部の社会人入学試験は、公募制自己推薦(AO型)として実施します。

高等学校等 コード	高等学校等の進路指導部へお問い合わせください。 ※大学入試センターのコードと同様です。							
課程コード	課程	全日制		定時制		通信制		その他
	コード	1		2		3		9
学科コード	学科	普通	商業	工業	農業	英語	総合	その他
	コード	1	2	3	4	5	6	9
志望コード	<p>日本文学科・中国文学科・神道文化学科志願者は、指定された出願要件（志望項目）の中から、主として志望するもの1つを選択し、入学志願票の「志望コード」欄に記入してください。また、経済学部志願者は出願するコースを入学志願票の「志望コード」欄に記入してください。</p> <p>※外国語文化学科、史学科、哲学科、法学部、人間開発学部は記入不要。</p>							
学科	コード	志 望 項 目 ・ 出 願 コ ー ス						
日本文	C 31	日本古典文学の学修・研究						
	C 32	日本近現代文学の学修・研究						
	C 33	日本語（古代語・現代語・方言など）の学修・研究						
	C 34	伝承文学（民俗学、口承文芸、祭礼・芸能など）の学修・研究						
	C 35	書道に関する学修・研究						
中国文	C 61	中国古典の学修・研究						
	C 62	中国近現代文学の学修・研究						
	C 63	中国文化の学修・研究						
	C 64	教職を目指しての専門分野の学修・研究						
神道文化	C 41	古代の神道史・神社の学修・研究						
	C 42	近世・近代の神道思想や制度の学修・研究						
	C 43	祭式・神社実務の学修・研究						
	C 44	宗教・宗教文化の学修・研究						
	C 45	比較宗教文化・国際化の学修・研究						
	C 46	現代社会と宗教、宗教理論の学修・研究						
経済経営	K 01	K-ENT 研究発表型						
	K 02	K-ENT 課題レポート＋面接型						

8. 入学検定料

入学検定料の振込について

入学検定料	35,000円
-------	---------

※出願開始日よりお振り込みください。

- ① 入学志願票に必要事項を全て記入した後、出願期限に間に合うように最寄りの銀行または信用金庫等の窓口（銀行等のATM・ゆうちょ銀行は利用できません）から本学が指定する銀行口座へ振込んでください。
 - 振込依頼書は入学志願票と一連になっていますので、必要事項を記入のうえ、切り離さずに銀行等取扱店へお持ちください。
 - 本学が指定する銀行（下記⑥参照）の各本支店から振込む際の手数料は不要ですが、その他の金融機関から振込む場合には本人負担となります。
- ② 振込終了後、「振込依頼書」は取扱店によって切り取られます。それ以外の収納印欄全てに取扱店の収納印が押されていることを必ず確認してください。
- ③ 「本人保存」は領収書となりますので、各自切り取って保管してください。
- ④ 出願の際には「入学志願票・写真票」を切り離さずに、その他の出願書類とともに入学課宛に送付してください（詳細はP.40～42をご参照ください）。
- ⑤ 一度納入された入学検定料は、返還しませんので、ご注意ください。
- ⑥ 本学が指定する銀行口座は下記のとおりです。

みずほ銀行	渋谷中央支店	普通	No.1391131	三菱UFJ銀行	渋谷中央支店	普通	No.0128169
三井住友銀行	渋谷支店	普通	No.8195674	りそな銀行	渋谷支店	普通	No.0093868

※ ご不明な点は、入学検定料を振込む前に、入学課（03-5466-0141）までお問い合わせください。

9. 学費等納付金

(1) 学費等納付金について（令和3年度参考）

金額については変更となる場合があります。

（単位：円）

費目		納期	入学時	入学後（後期分）	初年度合計	
学費	入学金		240,000		240,000	
	授業料	(文・経・法・神) (人間開発)	380,000 400,000	380,000 400,000	760,000 800,000	
	施設設備費	(文・経・法・神) (人間開発)	105,000 125,000	105,000 125,000	210,000 250,000	
	維持運営費		10,000		10,000	
	小計	(文・経・法・神) (人間開発)	735,000 775,000	485,000 525,000	1,220,000 1,300,000	
諸費	若木育成会費		29,000		29,000	
	若木学友会入会金		1,000		1,000	
	若木学友会費		5,300		5,300	
	院友会（同窓会）入会金		10,000		10,000	
	文学部・神道文化学部：國學院雑誌代		2,000		2,000	
	経済学部：経済学会費		2,000		2,000	
	法学部：國學院法学代		3,000		3,000	
	人間開発学部：人間開発学会費		3,000		3,000	
	小計	文学部		47,300		47,300
		経済学部		47,300		47,300
法学部			48,300		48,300	
神道文化学部			47,300		47,300	
人間開発学部			48,300		48,300	
合計	文学部 経済学部 神道文化学部		782,300	485,000	1,267,300	
	法学部		783,300	485,000	1,268,300	
	人間開発学部		823,300	525,000	1,348,300	

- 備考 1. 教員免許等各種資格の取得を希望する場合は、上記以外に別途費用が必要となります。
 2. 上表のうち、國學院雑誌代（文学部・神道文化学部）については消費税分を含んだ金額となっています。
 3. 文学部中国文学科入学者は、中国学会費2,000円が諸費に加算されます。
 4. 人間開発学部は、野外実習費として上記以外に別途費用が必要となります。
 5. 後期分以降の学費の納付については、口座振替となります。詳細については入学後にご案内します。

(2) フレックスコースの学費等納付金について（神道文化学部）

フレックス開講制のいずれのコースに入学しても学費等納付金は同額です。ただし、フレックスA（夜間主）コースの在籍生を対象に、月～金曜日の5～7時限及び土曜日1～7時限の科目のみで授業を履修し、本学の定める出願資格を満たした学生に、400,000円を給付する制度「フレックス特別給付奨学金」を設けています。**有資格者は入学後所定の期間に出願手続きをしてください。**詳細は学生生活課（03-5466-0145）にお問い合わせください。

※この奨学金を希望する場合には、**出願時に必ず「フレックスA（夜間主）コース」を選択してください。**

【入学手続き完了後の辞退について】

入学手続きを完了した後にやむを得ない事由により、入学を辞退する場合、令和4年3月31日（木）17時までに所定の申請手続を終えた方には、入学金を除く授業料等納付金を返還いたします。なお、詳細は『入学手続要項』に記載します。

【國學院大學教育充実資金（維持費）についてのお願ひ】

本学教学内容の維持・充実をはかるため、新入生の保証人（ご父母）各位に國學院大學教育充実資金（1口20万円）のご寄付をお願いしております。入学後の4月にご案内をいたしますので、ぜひ1口以上のご協力をお願い申し上げます。

※本学では入学前（3月まで）の募金活動は行っていません。

10. 入学前学習講座

國學院大學では、総合型選抜・学校推薦型選抜入学試験による入学者を対象に、合格発表から入学までの期間で「入学前学習講座」を実施しております。

この講座では、早期に実施される総合型選抜・学校推薦型選抜入学試験から入学までの期間において、学修機会を設けることで、入学後の学修がスムーズなものとなるよう実施しております。受講される場合は受講料を別途ご納入いただくこととはなりますが、本講座の趣旨をご理解いただき、積極的な受講をいただくようお願い申し上げます。

なお、申し込み方法等の詳細については、合格発表時にご案内いたします。

1. 実施期間：令和3年12月下旬～令和4年3月
2. 内容：小論文・英語・各学科指定課題（予定）

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

1200▲																			
1400▲																			
1600▲																			

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

志 望 理 由 書 自 己 推 薦 書			入 試 コード	D	1		
学 部		フリガナ					
学 科		氏 名					
表 題						

(注意) 文字数は出願先 (学部・学科) の該当ページで必ず確認してください。

200▲

400▲

500▲

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

																			▲500
																			▲600
																			▲700
																			▲800

添付資料目録	添付資料の 有無	有・無
---------------	-------------	-----

添付資料 番号	資料名
1	
2	
3	
4	
5	

※添付資料がない場合は、「添付資料の有無」欄の無に丸を付けてください。

活動報告書			入試 コード	D	1	5
学 部	人間開発学部	フリガナ				
学 科		氏 名				

活動内容を具体的に記入してください（箇条書き可）。

添付資料目録			入試 コード	D	1		
学 部		フリガナ 氏 名	添付資料の 有無		有 ・ 無		
学 科							

添付資料 番号	資料名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

※添付資料が10点を超える場合はこの【様式4-2】をコピーして使用してください。

※添付資料がない場合も、「添付資料の有無」欄の無に丸を付け、必ず提出してください。

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

エントリーシート				入試 コード	D	1	2
				法学部	法律専攻		フリガナ
政治専攻		氏名					

↑ 志願する専攻に○を付けてください。

志願理由について	<p>あなたが國學院大學法学部法律専攻または政治専攻を志願する理由を書いてください。</p> <p>*その際には、以下の3点を含ませてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたが法学や政治学を学ぶ目的 ・國學院大學法学部法律専攻または政治専攻があなたに適していると思った理由 ・法律専攻または政治専攻の授業にどのように取り組んでいこうと考えているか
----------	---

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

あなた自身のことについて	<p>あなた自身について、積極的に評価してほしいことを書いてください。 *これまで取り組んできた活動などの「具体的事実」、あなたや他人が捉えている「あなたの性格」などが一つのストーリーとして結びつけられている記述に挑戦してください。</p>
社会への関心	<p>あなたが現在（ALTレポートのテーマ以外に）、最も関心を持っている社会的出来事を一点挙げ、それに関してどのようなことを調べ、現在どのような考えを持っているか、書いてください。</p>

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

エントリーシート				入 試 コ ー ド	D	1	3
経済学部	経済学科		フリガナ				
	経営学科		氏 名				

↑志願する学科に○を付けてください。

(1) 高校の授業の中で印象に残ったことについて書いてください。

(2) (1)以外に高校生活で身につけたアピールできること(資格・特技など)について書いてください。

(3) 本学を知ったきっかけを書いてください。

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

(4) 経済学部および選んだ学科を志望した理由を書いてください。

(5) 大学生活における目標と卒業後の進路について書いてください。

(6) (4)(5)を踏まえて残りの高校生活で何をすべきか考えたことを書いてください。

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

エントリーシート(社会人用)			入試 コード	D	1	3
経済学部	経済学科		フリガナ			
	経営学科		氏名			

↑志願する学科に○を付けてください。

(1) 高校卒業後の諸活動において特に努力したといえることについて書いてください。

(2) 高校卒業後の諸活動において印象に残ったことについて書いてください。
((1)と連動してもしなくても可)

(3) (1) (2) 以外に身につけたアピールできること(資格・特技など)について書いてください。

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

(4) 本学を知ったきっかけを書いてください。

(5) 経済学部および選んだ学科を志望した理由を書いてください。

(6) 大学生活における目標と卒業後の進路について書いてください。

(7) (5)(6)を踏まえて入学までで何をすべきか考えたことを書いてください。

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

エントリーシート				入 試 コード	D	1	5
				人間開発学部	初等教育学科		フリガナ
健康体育学科		氏 名					
子ども支援学科							

↑ 志願する学科に○を付けてください。

あ な た の こ と	本学部・学科を志望した理由
	自分について最も評価してほしいところ（他人に誇れる性格、特技、経験など）
	最近気になっている社会問題とその理由

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

あなたのこと	継続的に取り組んできたと自信をもって言える活動とその期間
あなたが考えること	<p>「個性的」とはどういうことか</p> <p>社会に「人間開発」が必要であると思う理由</p>

活動計画書

入試
コード D 1 5

学 部

人間開発学部

フリガナ

学 科

氏 名

100▲

200▲

300▲

400▲

500▲

600▲

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

履 歴 書		在職証明・推薦書	
学 部		フリガナ	生 年 月 日 (西 曆)
学科・専攻		氏 名	年 月 日 生 (満 歳)

履 歴 書		
年	月	学歴・職歴など(項目別に記入すること)

↓以下は法学部の社会人の出願者のみ記載が必要となります。

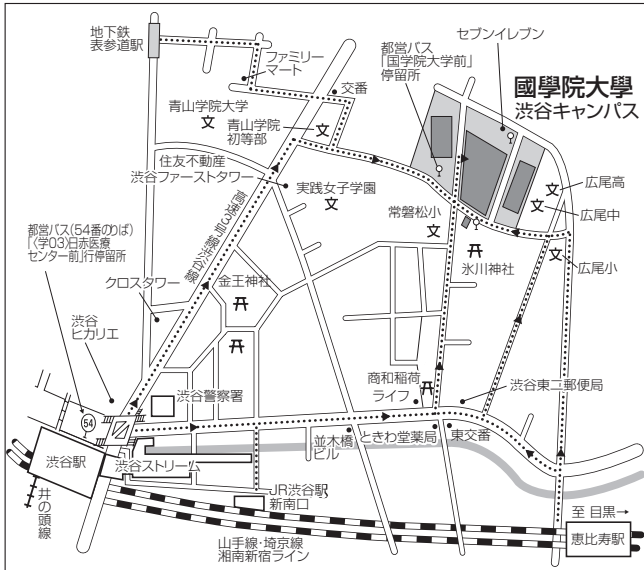
在 職 証 明

勤務先名	(印)	所在地	〒 -
在職期間	年 月 ~ 現在 年 ヶ月勤務	Tel	- -

推 薦 書

推薦者氏名	(印)	本人との関係 (続 柄)	
推薦理由		

渋谷キャンパス 〈文学部・神道文化学部・法学部・経済学部・専攻科・別科のメインキャンパス〉



＜所在地＞〒150-8440
東京都渋谷区東四丁目10-28

＜交通機関＞渋谷駅東口方面出口より徒歩約13分、
または、
渋谷駅東口バスターミナル(54番のりば)
より
都営バス〈学03系統〉「日赤医療センター前」行き(運賃 現金180円・IC175円)
「国学院大学前」下車

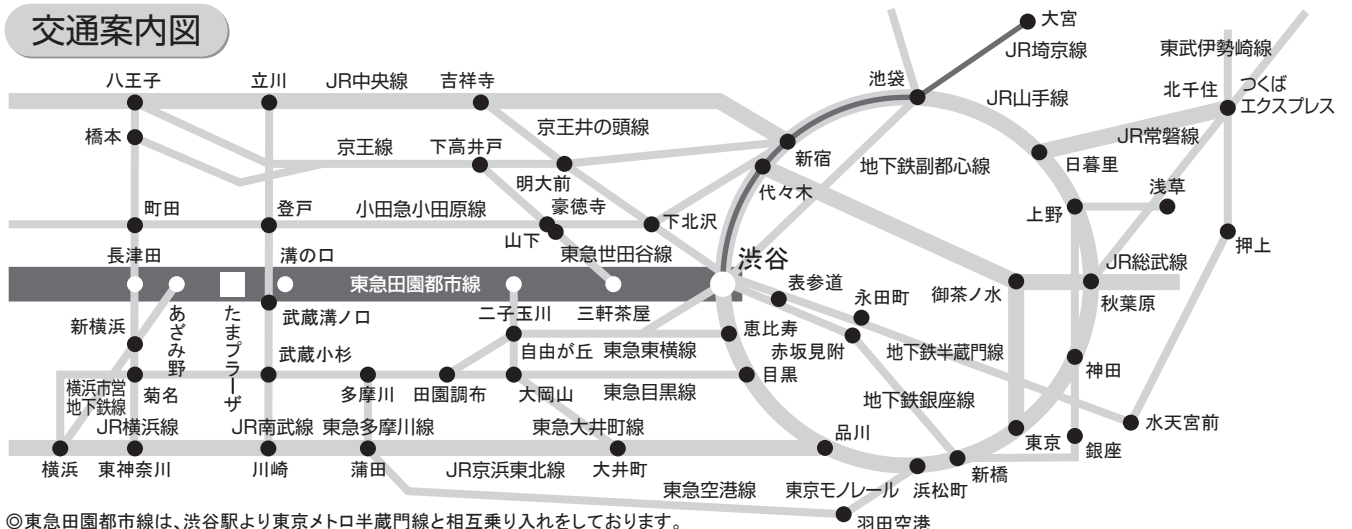
横浜たまプラーザキャンパス 〈人間開発学部のメインキャンパス〉



＜所在地＞〒225-0003
神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22-1

＜交通機関＞渋谷駅より東急田園都市線(長津田・中央林間方面行き)にて約25分
(東京メトロ半蔵門線相互乗り入れ)
たまプラーザ駅下車南口より徒歩約5分

交通案内図



◎東急田園都市線は、渋谷駅より東京メトロ半蔵門線と相互乗り入れをしております。

※本ページに記載されている情報は発行時のものです。変更される場合がありますので、ご自身で必ずご確認ください。

